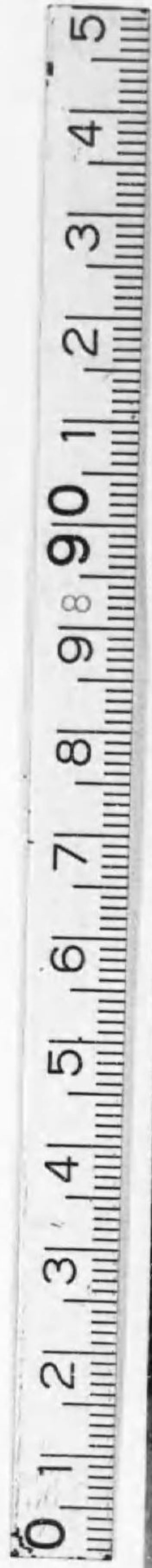


始



簿記数字の書方

吉田一郎著

同文館

特217
390

方書の算術

吉田一郎著



同文館



序に代へて

本書は拙著「簿記習字帖」第一卷及第二卷の解説を目的として編纂したものであつて、それに嘗て著者が川崎第百銀行の銀行實務講習會で講じた「アラビヤ數字の書き方」速記の一部を加へた一小冊子に過ぎない。従つてアラビヤ數字の起原沿革等の如きを敘するのはその本旨でないから、これ等は極めて簡単にその大要を掲ぐるに止めた。けれども諺に“Figures don't lie.”(數字に偽なし)とある如く、凡そ數字は如何なる場合にでも、そこに何等の推斷をも許さない「字形の正確さ」を必要とする。本書の前半第五頁より第十八頁に互る記述は、如何にして此「字形の正確さ」を會得するかといふことを、英字書法の本原に立脚し、それに數字各個の分解的解説を試みたもので、此種の著書として恐らく最初のものと考へる。

「數字の實際」なる項下に採録した貯金局及諸銀行の手本は、生きた數字の實例として渺たる

本書に一脈の生氣を與へるものと云へよう。
これ等の手本は何れも先輩知友の好意による
ものであることを明記して、茲に感謝の意を
表したい。

昭和九年十一月

著 者

目 次

前 編	頁
一 原始人の数の表現	1
ニ ギリシヤの數字	2
三 ローマ數字の起原	3
四 アラビヤ數字の起原.....	4
五 アラビヤ數字.....	7
1, 4, 7の書き方.....2, 3, 5の書き方.....0, 9,	
6, 8.....の書き方	
六 數字の特質.....	19
七 ペン先に就ての注意	21
八 傾斜に就て.....	26
九 數字の速度.....	30
十 數字の實際.....	30
貯金局使用の數字	日本勸業銀行の
數字.....三井銀行の數字	安田銀行の
數字.....第一銀行の數字	不動貯金銀
行の數字	
後 編(簿記習字帳解説)	
第一卷 解説.....	41
第二卷 解説.....	52

簿記用數字の書き方

吉 田 一 郎

前 編

一. 原始人の數の表現

凡そ人類の數を表したり、又計算の助けをするためには、そこに何等かの記號があつたに相違なく、そしてそれは文字を書くことや、又人類の數の觀念が發達して、十進法の計算用語などが出来るよりもずつと以前のことであつたと云ふことは、今日迄に發見された色々な文獻でこれを證明することが出来るのであります。

しかし兎に角太古の人類にとつて人間の指は指そのものが「一」から「十」までの目に見える數を表す記號であつたのでありまして、極く簡単な數の加減は皆指で済ませて居たのであります。今日でもドナウ河の下流に住むルーマニアのワレキア族の間では、簡単な乗算などを指でやつて居るといふことであります。例へば 8×9 といつたやうな時に、左手の中指に(これは親指から繰返し數へ 8 としたもので)、右手の薬指(これも

右手の親指から順に数へて、繰返し9となつた指)を載せ、右の親指から人差指、中指、薬指と数へて4といふ数を得、又左の親指から人差指、中指と数へて3なる数を得、此4と3とを加へたものを十倍して70、それに左と右との指との重り合せてある数即ち右手では小指、左手では薬指、小指即ち2に1を掛けて2なる数を得、これを70に加へて $8 \times 9 = 72$ なる答を得る遣方をして居り、これを 2×3 、 6×7 に應用しても、皆それで6、42、といふ結果が得られるのでありまして、かうして一々説明的に御話すると、却つて面倒に思はれますが、ワレキアンはこれを何の雑作もなく、頗る簡単にやるといふことであります。それから十進法の案出によつて太古の人でも一萬までの数は、十本の指の色々な變化ある表現によつて使ひこなして居たのでありますが、世の中が段々進むに従つて、これ等の数を記録して置かねばならぬ必要が起つたのであります。

[註] ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA vol. XVII 第 625—26 頁参照

二. ギリシャの数字

最初数を記録するために如何なる方法が用ひられたかと云ひますと、先づアルファベットを利用して數

を表したのであらうと云ふことが考へられます。

古代希臘人は紀元前五世紀頃既にこの方法で數を表してゐましたので、即ち彼等は1, 2, ……10, 20, ……100, 200, ……900の廿七種の數を表すために、希臘文字のアルファベット廿四字に ϵ , ρ 及 ω の三字を ϵ , π 及 ω の各後に置き、そしてアルファベット順に1, 2, ……9の一位の數に α , β , γ , δ , ϵ , ζ , η , θ , 10, 20, ……90の二位の數に ι , κ , λ , μ , ν , ξ , \omicron , π , ρ , 100, 200, ……900の三位の數に σ , τ , υ , ϕ , χ , ψ , ω , ϖ を充當し表したのであります。

[註] Meyers Grosses Konversations-Lexikon Vol. XX “Ziffern”の項参照

三. ローマ数字の起原

ところがローマ人になりますと、「1」から「10」迄の數を手の指の形そのまゝをとつて記號とすることを考へたのであります。即ち1はI, 2はII, 3はIIIと。これまでは問題はありませんが、4は5の形を右手の四本の指を揃へたものと、親指一本とに象つた爲めIVとし、或は又四本の指そのまゝでIIIIとも書いたのであります。それから6から9まではVI, VII, VIII, IXで、10は兩手を組合せた形に象りXとしたので、恰も漢字の「拾」が「手を合す」と書いてあるのと同じであります。

ところが此ローマ數字は本來のローマ字そのものの殆んど世界の文明國に行き互らない處はない位に普及して居るに拘らず、僅かにその形だけを時計のダイヤルや章句の Ordinal number に止めて居るに過ぎないのであります。それに反してアラビヤ數字は本來の文字そのものは私共にはまるで判じ物のやうにむづかしいので僅かにマホメット教を奉ずる諸國即ちシリヤ、リバノン、エヂプト、ペルシヤ、アフガニスタン、印度等の小亞細亞を中心とする東歐、西部亞細亞、阿弗利加の北部にだけしか残つて居るに過ぎないのであります。但し、數字だけは他の何れの國の數字より簡單であり、使ひ易く、覚え易いので、それこそローマ字以上に世界の隅から隅まで擴まり、日本あたりでもどんな西洋嫌ひな漢學者でも、此アラビヤ數字だけは毎日平氣で使ふといふやうになつて居ます。

四. アラビヤ數字の起原

それでは此アラビヤ數字はどうして出來たかと云ひますと、西曆七百七十三年チグリス河畔の回教國都バグダットに、印度の一使節が當時の天體觀測の模様を數字で表したものを持つて來たのが初であると云

はれて居りますから、アラビヤ數字の先祖は印度にあるといふのが今日の史家の定説であります。時の回教國主即ち Caliph はマホメット・アルカリズミ (Mohammed al Kharizmi) と云ひ、文學美術工藝等の大なるパトロンであつたといふことでもあります。當時印度から齎された數字は

—	二	≡	4	5	6	7	8	9	0
.	2	3	4	5	6	7	8	9	0

第 1 圖

といつたやうなもので、これが歐羅巴に擴まつて行つたのは十三世紀の頃であると云はれて居ます。元來アラビヤ數字はかく印度から傳へられたものであります。アラビヤ人によつて歐羅巴へ齎されたため、この種の數字をアラビヤ數字と云ふ所以であります。

此アラビヤ數字がどんな工合に今日見るやうな簡單な數字にモディファイされたかと云ふことに就ては種々の説がありますが、*こゝには此アラビヤ數字の原形が如何なる形で今日のアラビヤ文字を使ふトルコ、シリヤ、ペルシヤ、エヂプト等の數字に残つて居るかといふことを御目にかけることに致します。

1 2 3 4 0 7 7 9 .

第2圖 トルコ, シリヤ, エチプト數字

1 2 3 4 0 7 7 9 .

第3圖 ペルシヤ數字

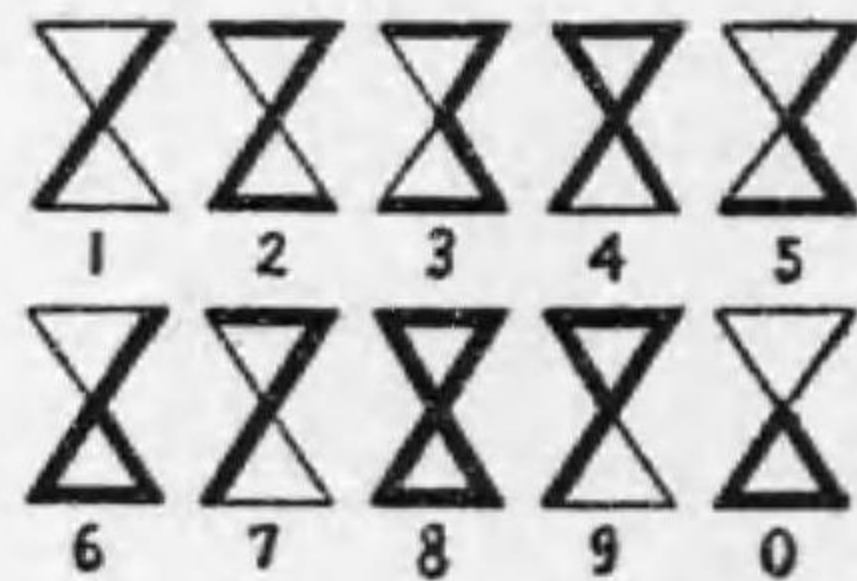
以上で特に我々の目につくのはペルシヤの5と、以上諸國の零が「0」になつて居るだけでありまして、あとは大體似通つて居ります。

* 今日の如き簡単な數字はどうして作られたかに就ては色々な説がありますが、その中二三面白さうな説を圖示してみませう。(東京朝日新聞第一萬七千七百七十三號(五)参照.)

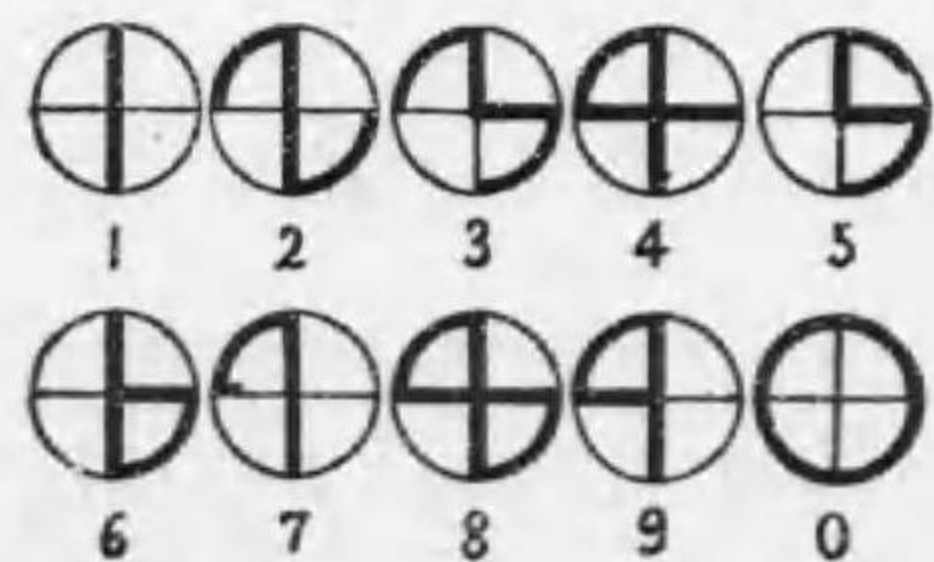
[砂時計の形のどこかの線をとるところ取つて數字を作つたといふ説——第4圖]

[圓の中に縦横に線を引き、そのどこかの線を取つて數字を作つたといふ説——第5圖]

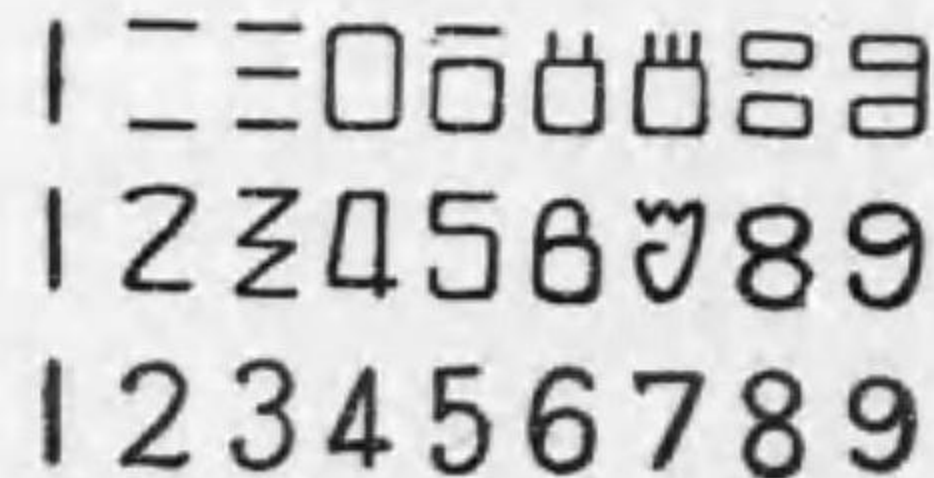
[短い棒の數によつて數字を作つたといふ説——第6圖]



第4圖



第5圖



第6圖

五. アラビヤ數字の書き方

で、かうして出來たアラビヤ數字を今日の我々がどんな風に Analyse して習ひ、又教へるかと云ひますと、此數字を三つの系統に分ち

第一 直線系統の 1, 4, 7

第二 右廻曲線系統の 2, 3, 5

第三 左廻曲線系統の 0, 9, 8, 6

の三つに大別致して居ります。

1, 4, 7の書き方

先づ第一の直線系統の 1, 4, 7 の直線を含む數字の豫行練習として次の三種の練習をし、



第7圖 上を揃へる 下を揃へる 上下を揃へる

この練習が済んだら、今度はこれを一つ一つ削 / / / / A / B

して、60度の角度をもつ 第8圖

斜線を引いて見る。ところが此斜線は力の入れ工合が上も下も一定して居ないと、或時は A の如く、或時は

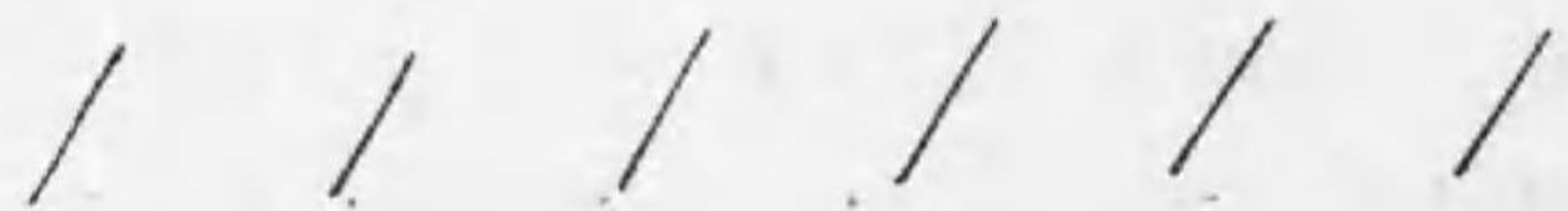
Bの如くなるが、實際に於てこれは上を強くBの如く書くと、挿圖の如くなる機会が多く、線の下へ行く程そ



第 9 圖

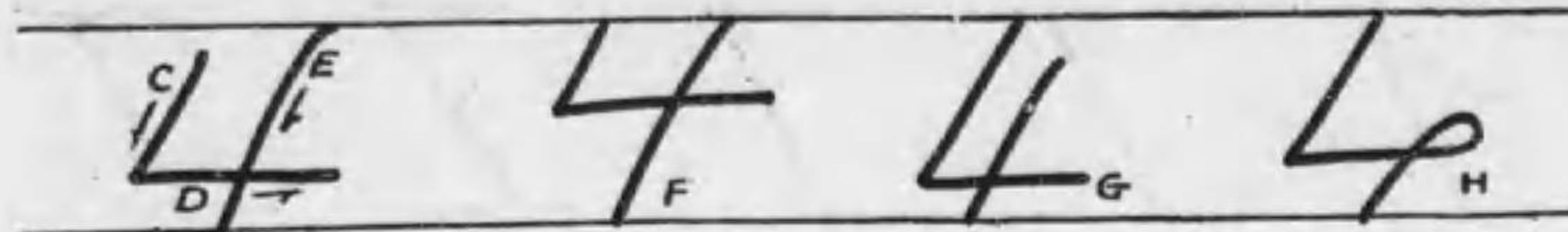
の傾斜が揃つて來ないので、或時はSの字の如くなつて來る。これはペンに筆壓が足りないため、下へ行く程僅少の力でその筆の方向が變じて來るため、これは是非共A圖の如く最初は少し弱目にそして下へ行く程強目に書きたいものであります。

要するに1は無理な力を入れしないで、傾斜度を一定し、且つ線が震へないやうに、全く速力からくる一種のはずみだけで書くのです。下へ行く程強目に書くといつても、無理な筆壓を加へるのでなく、このはずみで書くので、さもないと線が震へて來ます。



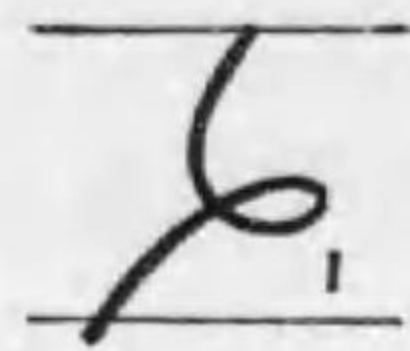
第 10 圖

次の4は色々な書き方がありますが、私は大體第11圖右端の如くCは幾分外へ反り氣味とし、Dはベースラインと平行に、Eは書出しをCの如く外側へカーヴ



第 11 圖

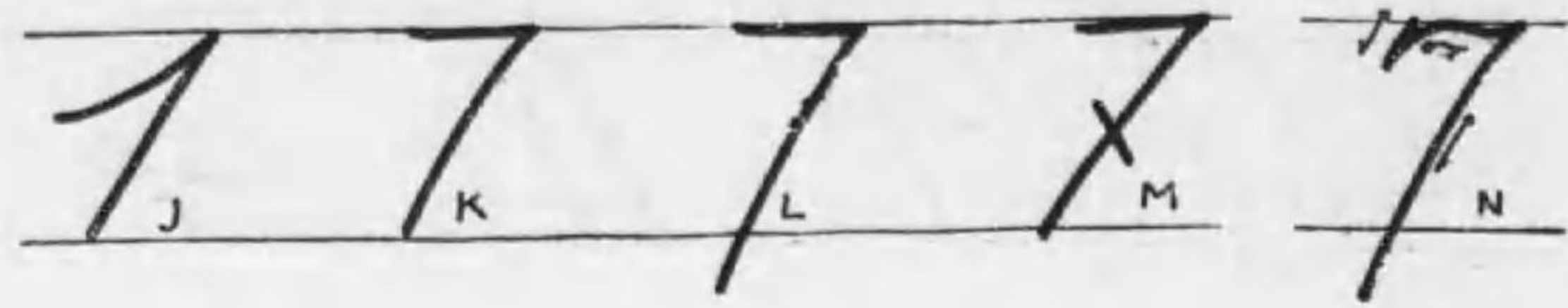
させて、あとはなるたけ直線になるやうにさせて居りますが、これは文字の形が壊れないやうに字形の Stability (安定)と Symmetry (均齊)をとるためにやつて居りますので、同圖Fの如き形もありますが、何れも一の線はなるたけ下にして圖の様にならない様に、又G圖の如く第二下行線が第一下行線より低くならないやうにします。それから二つの線を續けてH又はI圖の様なアラビヤの原形にもどらないやうにしませんと、6と間違ひ易くなります。今4の正しい形を書いて見ますと、



第 12 圖

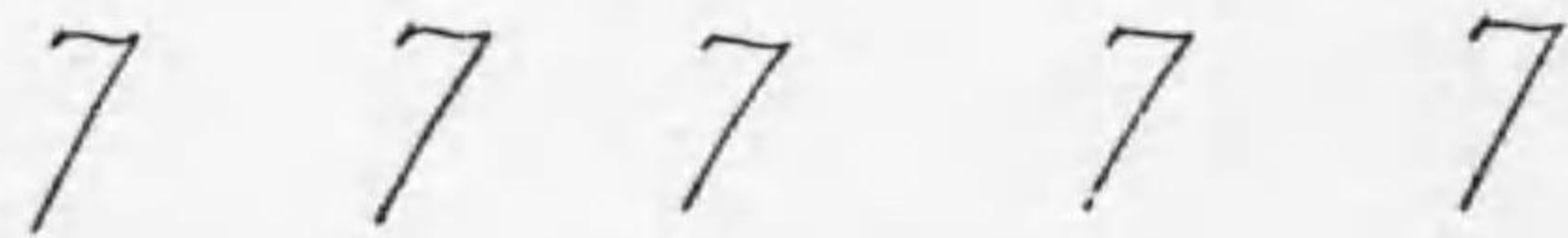
の如くでありまして、早書の時の速度と形とは餘程よく注意し、その形のくづれないやうにすべきであります。

4に次で7はアラビヤの原形が第13圖Jの通りであるためK、L兩圖の如き形、或は此7が1をJ圖の如く書く場合と間違ひ易いので中央に點を打ち、M圖の如



第 13 圖

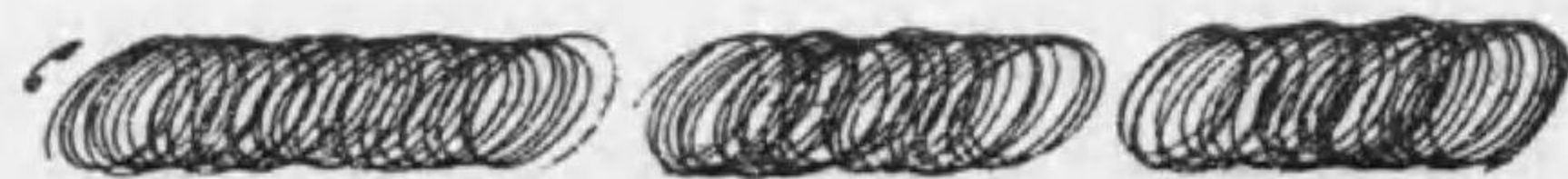
くする形も認められ、佛蘭西、獨乙等では寧ろ書き出しの水平線を多少カーヴさせるために、最初に小さな打立てを作り、N圖の様な7にした方が文字の形も整ひ、且つ最後の長い下行線がカーヴの反動で幾分反り氣味になり、文字の安定が出来るためよくはないかと考へます。そして下行斜直線は1の高さを一とすれば、7の高さはその三分の一だけベースラインの下へ出る様に書くのであります。



第 14 圖

2, 3, 5の書き方

それから今度は左廻曲線を主とする數字であります。数字の練習に先立つて、次のやうな豫行練習をや

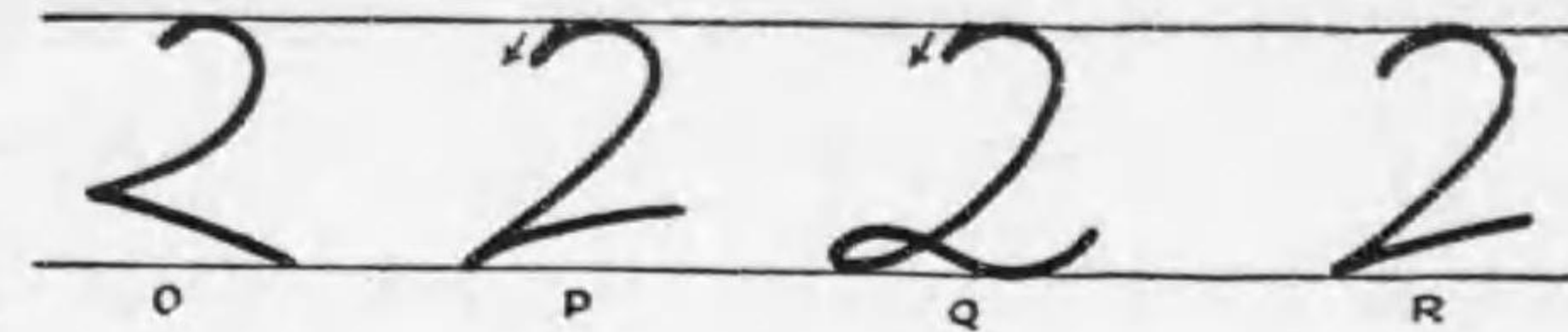


第 15 圖

つておくと、ずつと運筆が軽く樂に出来ます。

此練習を終つたら、最初2へ移りませう。2はその原形が印度のZから出て2となつたもので、今日のアラビヤ系の文字を使ふ國ではOの様になつて居りますし、且又その速度と Legibility との上から、私はPの如き形を

とつて居りますが、
これとア



第 16 圖

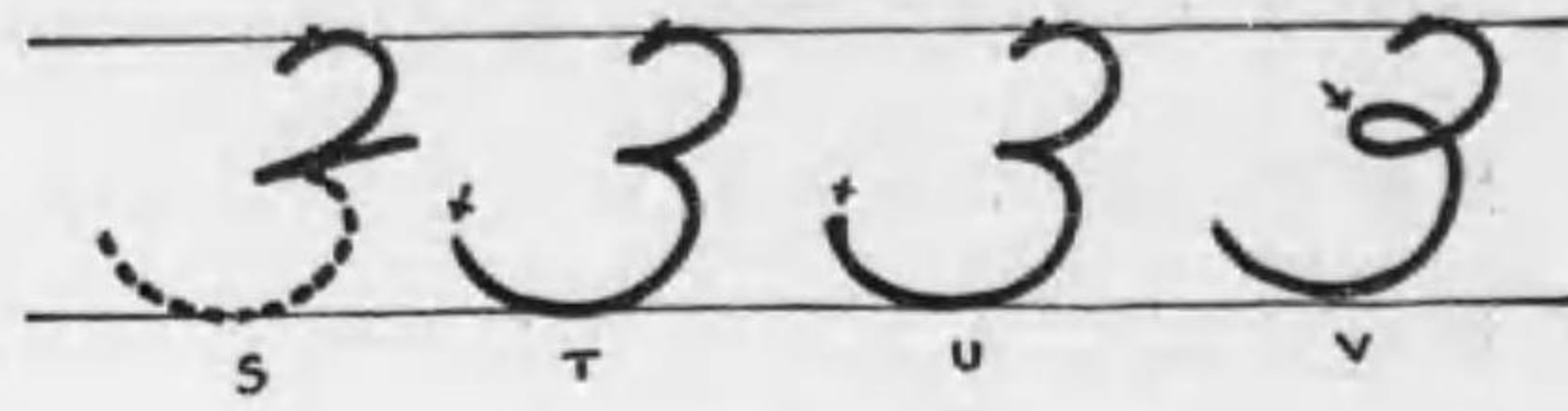
ルフアベットのQのキャピタルを小さくした前圖の如き2としても差支へないので、これは何れを書いてもよいと思ひます。然しどちらも最初の書き始めはRの如く左下から右上へすぐもつて行かないで、前圖の如く一旦左下へ點を打つて、それを引かへす様にして書きますと、大變文字がしまつて見えるものであります。



第 17 圖

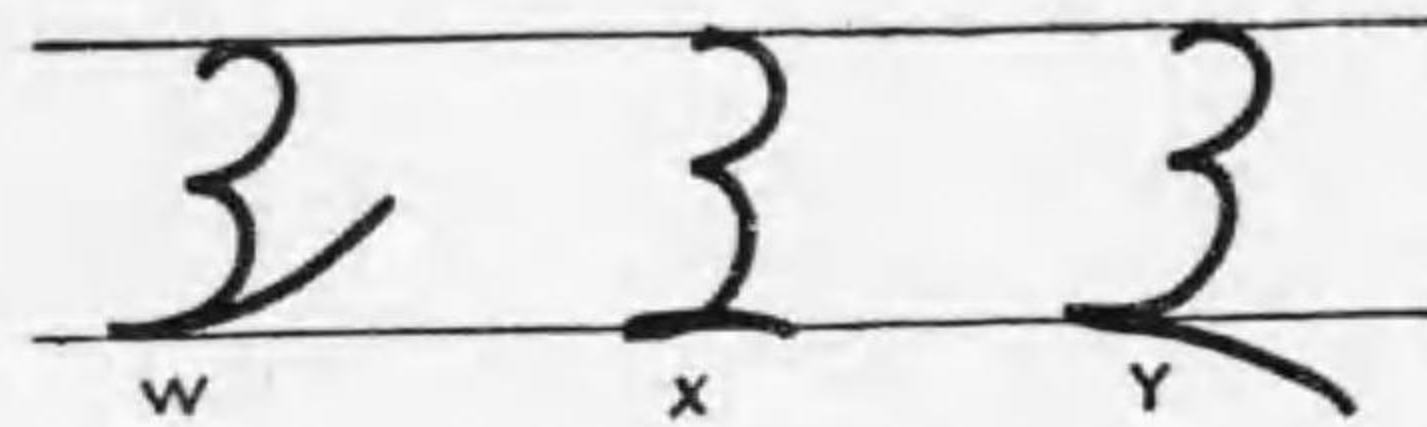
2の次は3で、此3は2に半圓をつけてSの如くすればよいのです。終りをTの如くハネあげるのと、Uの如く止めるのと二通りありますが、出来ればハネた

方が文字の速度は早いのであります。



第 18 圖

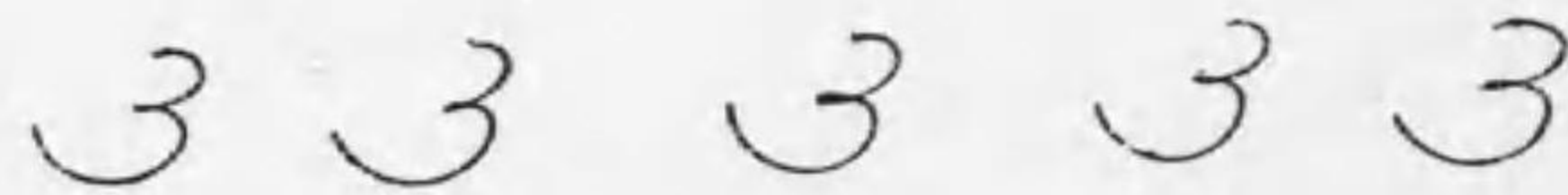
それから又 V の如く中央に小さな結び目 (loop) が出来るのであります。しかしこれはなるだけ小く、或は出来れば前の二つの如くループのないやうにした方が、文字の安定を高める上からよいと思ふのであります。これもア



第 19 圖

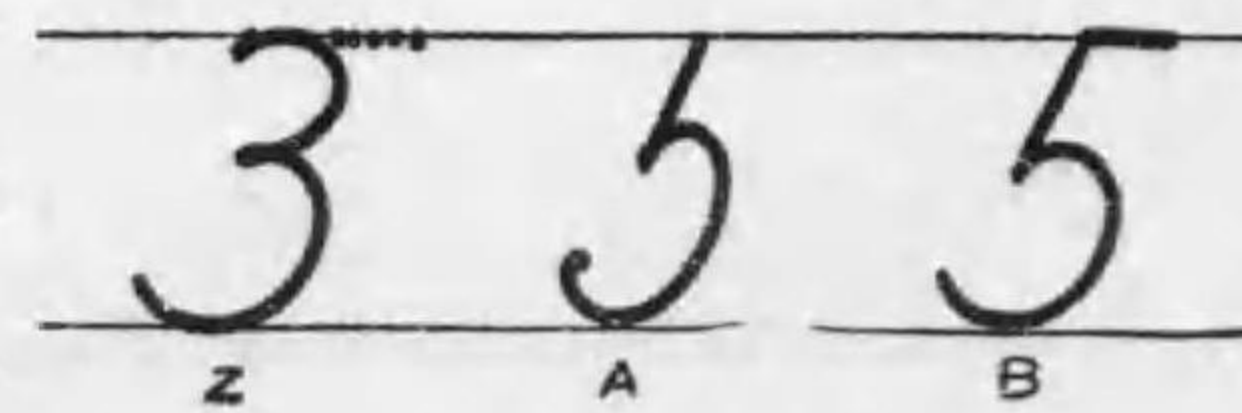
ラビヤの原字では W の如くなり、最後の下の横棒をとつたものがあります

が、今のアラビヤ語系の諸國では、X 又は Y の如くなつて居ります。



第 20 圖

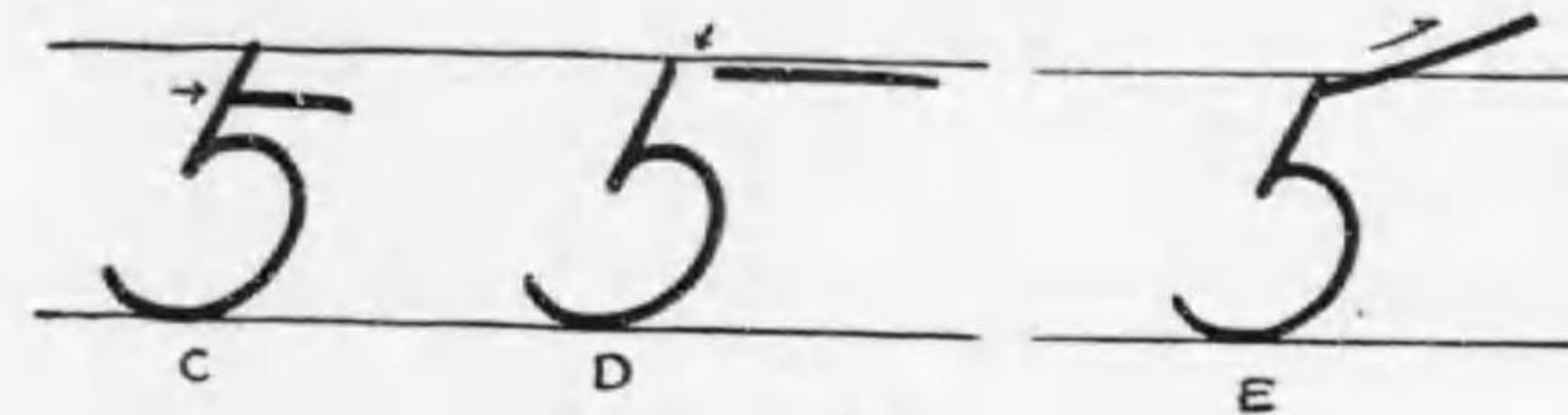
次の 5 は書法の上から云ふと、第 21 圖 Z で示した如く 3 の變形と見ることが出来るのであ



第 21 圖

りますが、これがアラビヤの原形では A の如く先の一才出たもので、第十五、六世紀頃迄やはりこの書き方を用ひ、横の小さいハネはつけて居りませんでした。が、アラビヤ數字全體の形が整ふやうになつたので、これが B の如き 5 になつたのでありませう。

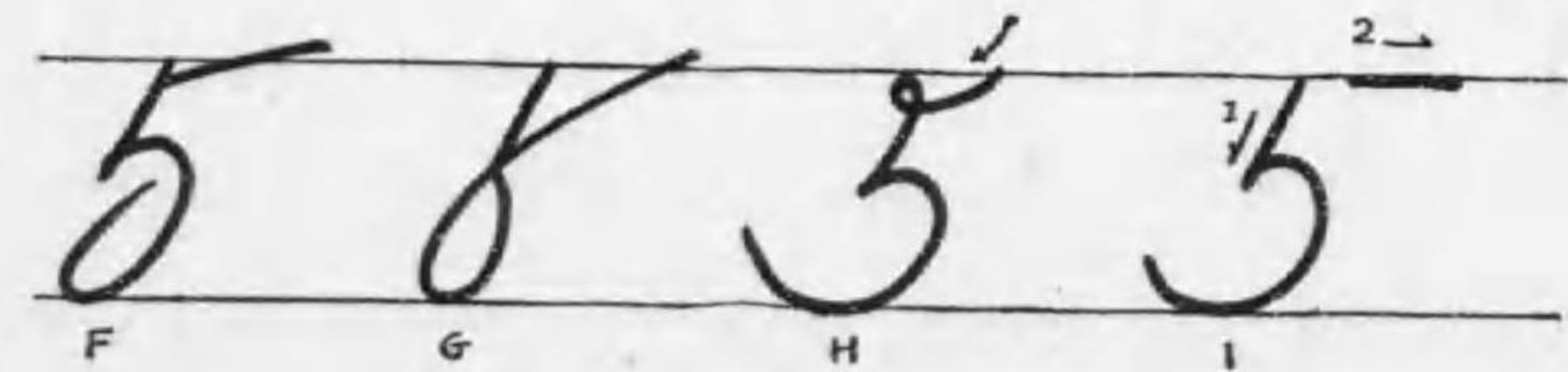
此 5 の上の横棒のことで一寸思ひ出したのですが、商科大學のガントレットさんと數字のことでお話しした時にも、自分は嘗て三菱銀行で餘程以前に數字の或る講習をやつた時、行員の中に C の如く斜直線の中央



第 22 圖

から横のハネを書いたり、或は D の如く離したりする人

があるので、寧ろそれを E の如く斜直線の上に高くつけるやうにすゝめたと云つて居られましたが、成程その爲かも知れませんが、私の持つて居ります三菱銀行の當座の通帳は悉くこの横線右上りの 5 になつて居ります。ところが此 5 を急いで書きますと第 23 圖 F



第 23 圖

の様になり進んでは G の様になることがあるかも知れません。これでは 5 だか 8 だかわかりません。これは餘り急いで 5 の横棒を書いたために、ステムのカーヴを筆が切れずに間に續けたからであります。しかし実際にはよく書かれて居る様です。現に私の持つて居ります東京の Y と云ふ大銀行の當座通帳に、それぞれよく見受けられるのであります。この 5 は昔のアメリカのスペンサー等は H の如く一筆に書いたものであります。私は矢張り I の如く二度に書いた方が間違がなくてよいと思ふのであります。



第 24 圖

0, 9, 6, 8 の書き方

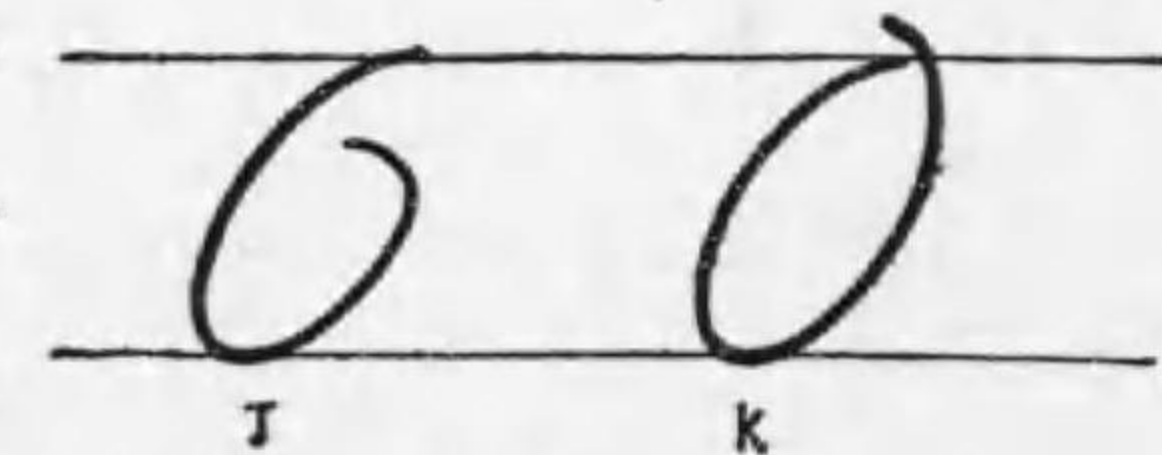
それから今度は第三の右廻曲線を主とする数字の 0, 9, 6, 8 の書き方でありすが、0 からお話し致しませう。0 はアラビヤ数字の發祥地たる印度では 0 ですが、アラビヤでは「۰」で済まされ、10 は「1۰」、100 は「1۰۰」となつて居ります。これは殆どアルファベットのスマール o そのまゝで、只数字全體の調和上幾分長目に書い

た方がうつりが好いと云つた程度でありますから、スマール o の練習と同じく oval 即ち卵形を目標にして書き、次圖の如く筆慣しをやつて順次 0 の練習に入ります。



第 25 圖

す。この書き方で一寸注意せねばならないのは、左側の曲線が右側に比べてカーヴし難いといふ傾向のあることです。これをなほすには幾分速力をゆるめる位にして、その書き始めを十分カーヴさせますと、左側と右側のカーヴが同じ様になつて調和のとれた 0 が出来ます。それからもう一つ注意していただくかねばならないのは急いで書いて第 26 圖 J の様に 6 だか 0 だかわからない文字を書かれない様に書くこと



第 26 圖

で、これは寧ろ少し極端ですが K の如く右側の曲線を左側の曲線の上へおひかぶせる様なつもりで閉ぢれ



第 27 圖

ば絶対間違ひありません。

0 について 9 は 0 に斜線を一本足したやうなものです。そこに一寸呼吸が要るのです。それは 0 は何處までも 0 で、9 の上につける卵形は 0 に似て居ても 0 でないのです。と云ふのは両側のカーヴが同じでないといふことで、左側のカーヴは 0 と同じ様に曲つてゐるが、右側は殆んど直線を目指して線を上げます。即ち第 28 圖の如くで、0 に比べて



これは下へ引く直線を文字全體の角度即ち 60 度を變へないやうにするためです。もしこれが 0



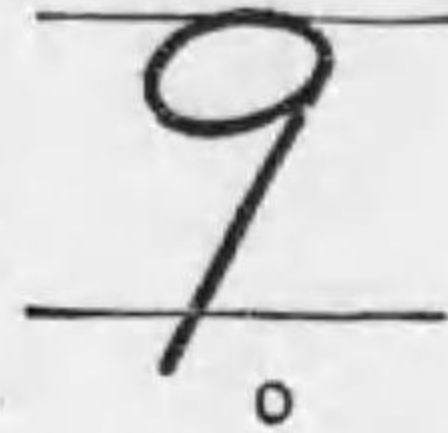
となつてゐれば、上行線と下行線とが重り合はぬ様にするためには自然運筆に無理を生じます。

第 29 圖 ところで前のやうに書いて第 29 圖の如き 9 にするので、これは英字草書體の A, G に於けると全く同一で 9 は此要領一つで書けるといつてよいのです。

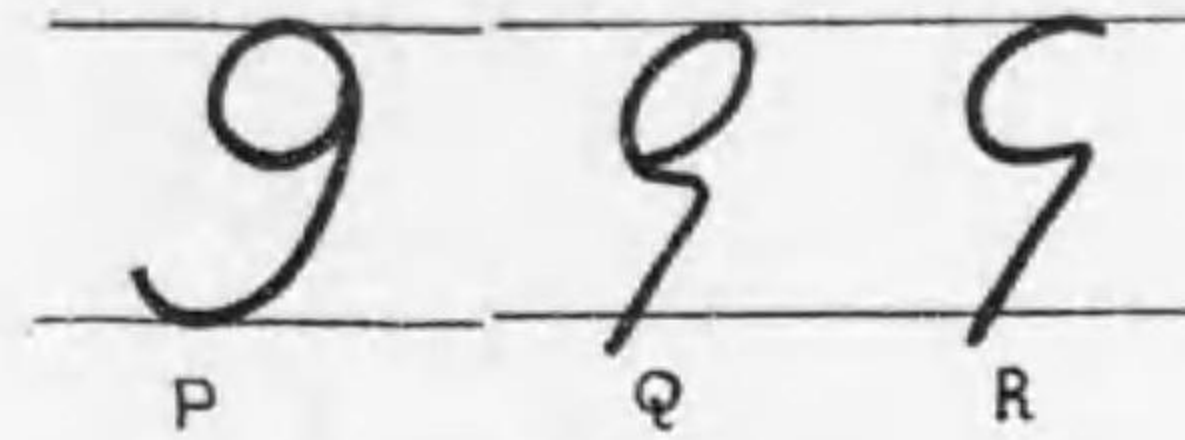


第 30 圖

なほ 9 を第 31 圖の如く卵形の仰向けに書いたのをみることがありますが、これは改めねばなりません。



9 の高さは下行線が 7 と同じく 1 や 2, 3, 第 31 圖 5 などより三分の一だけ下へ出し、卵形の下はベースラインより少し離します。

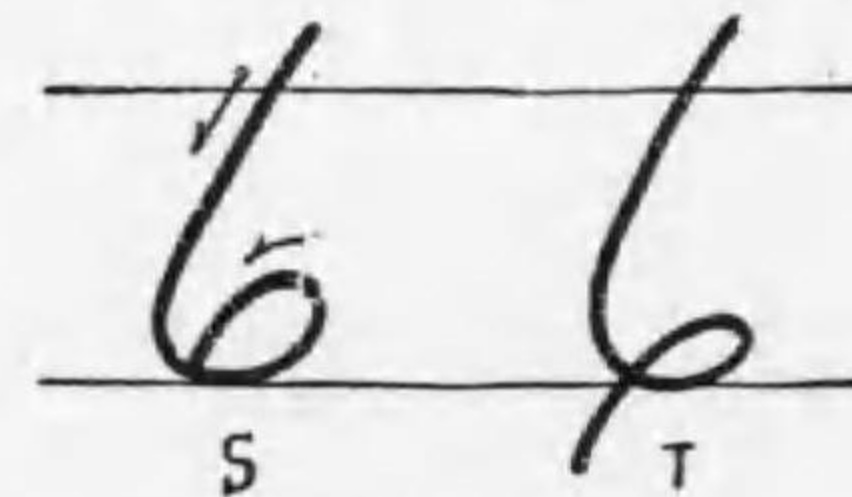


9 のアラビヤ原字は第 32 圖 P の通りですが、これを Q 若くは R の様

第 32 圖

に書くことができますが、これも餘り感心しません。

6 はその高さが上へ三分の一だけ出て居り、長い下行線は直線の積りで書き、下のループはその終りを下行線に平行といふよりも幾分左下へ向けて第 33 圖 S のやうにハネる様にします。そしてこのループの終りは T の様に下へ出な



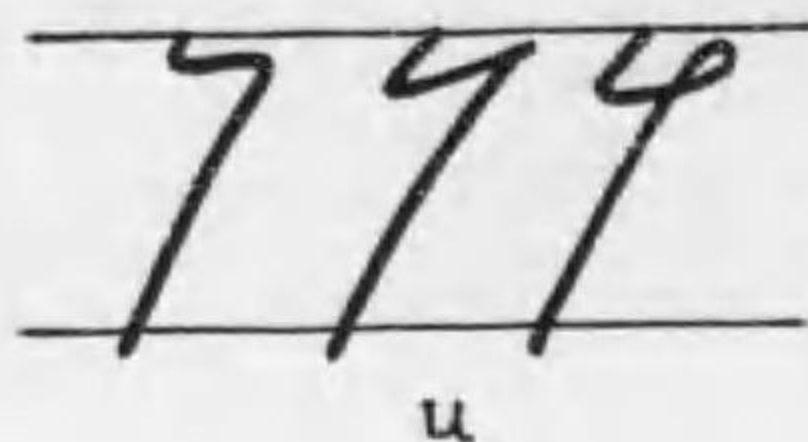
第 33 圖

い様にせねばなりません。これは 4 との間違ひを防ぐためであります。



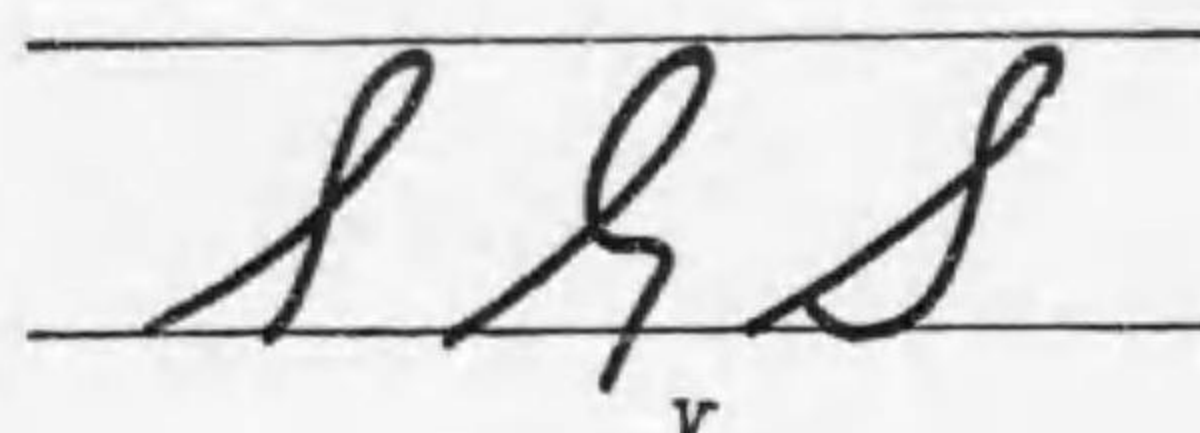
第 34 圖

アラビヤ数字の6の原形は今の8に近いものであり、現在のシリヤ、トルコ、ペルシヤ、エジプト等の文字は第35圖の如くなつて居りますがこれがUの如くなり、9と間違ひ易いので、これを反對にして6としたのであります。



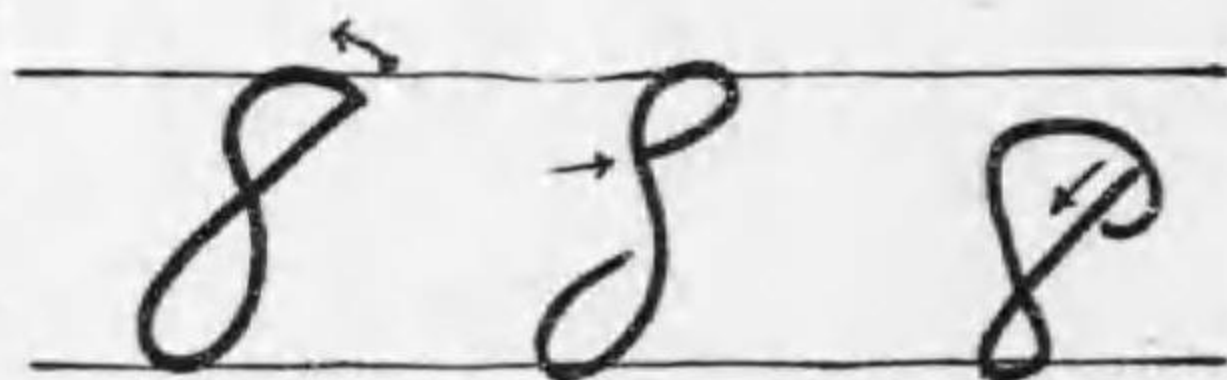
第 35 圖

8はアラビヤの原形では7の∨に對し、その反對にフとなつて居りますが、第十三世紀頃の数字には第36圖の如きものがあり、これが轉倒して8となつたものと思はれます。然し今でもトルコ、シリヤ、エジプト、ペルシヤ等では7は∨、8はフで通つて居ります。



第 36 圖

此8は書き方に色々ありまして、第37圖の如きものがあります。震災前貯金課あたりでは入所早々



第 37 圖

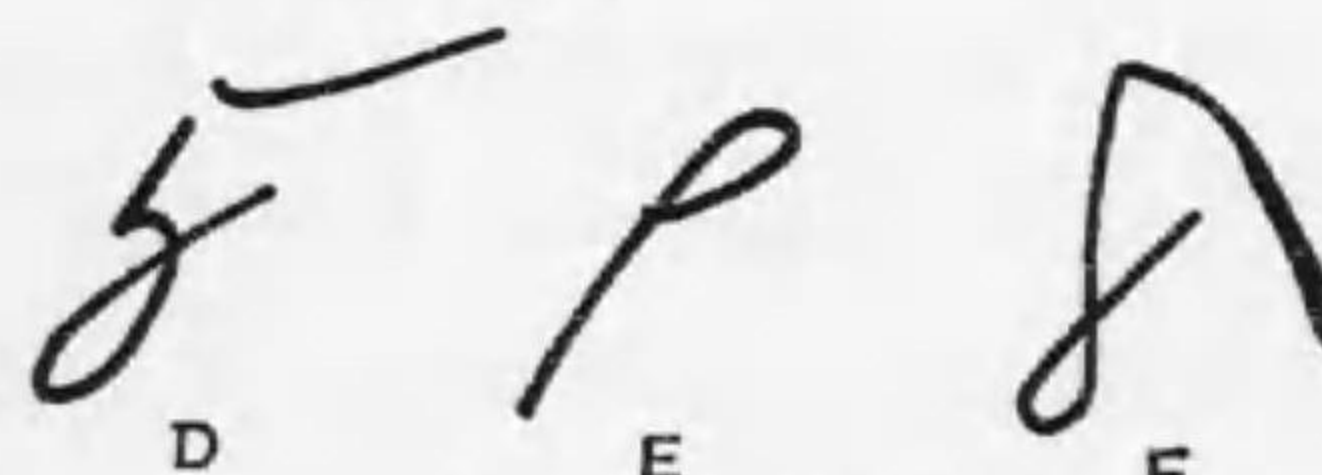
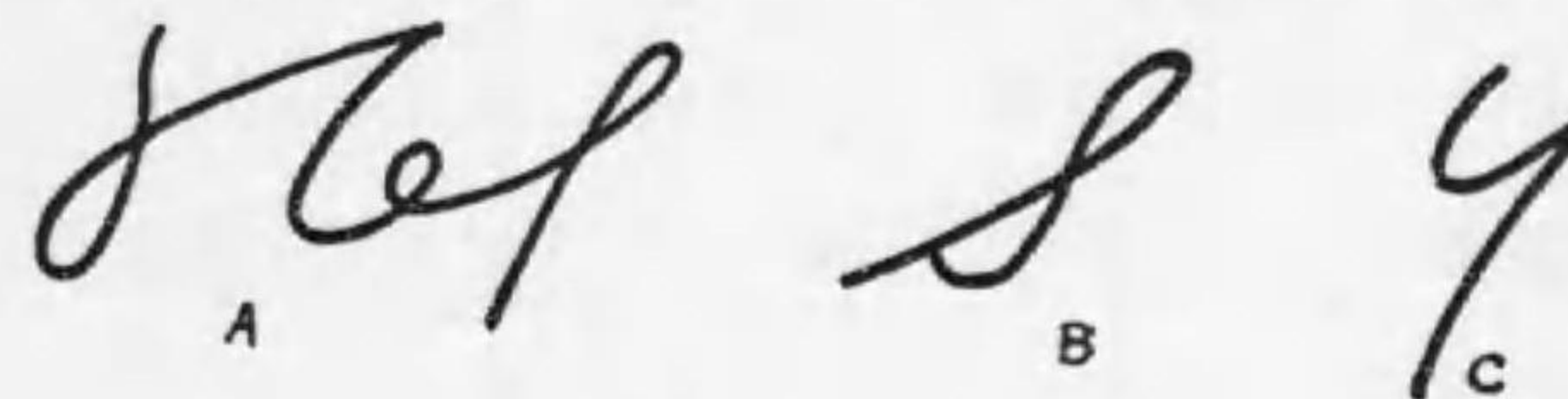
態々特に此最後の8に一定さす様に教へられたものであります。しかし今では私共の唱道して居ります前圖の中最初の8の如き極めて平易な無理のない書き方に漸次改良されて來たのは喜ばしいことでもあります。



第 38 圖

六. 数字の特質

東京の某大銀行で第39圖Aの如き数字が書かれてゐるのを見たことがあります。業務多忙としても少



第 39 圖

少ひど過ぎるやうです。大體数字そのものが文字のやうにそのコンテクストで察しのつくものでもなく、又 Figures don't lie (数字に偽なし)の諺にもある如く想像を逞しうすべき性質のものでありませんから、此前圖の最初の数字は5と讀んでよいか、8と讀んでよいかわからないのであります。終りの1の如きも甚だ亂暴な書き方です。

又近頃本店が丸の内に移つた某大銀行に勤めて、英

習字と一緒に数字をやつた方の手紙に、その本店に 8 を書くのに同圖 B の如く 8 の原始的のアラビヤ数字に似たやうに書く人があり、9 を C 圖の様に書く人等もよく見受けられると云つて居ります。

それから大銀行で 5 を D 圖、9 を E 圖の様に書いたり、8 を特に F 圖の如く書いて最後の矢印の部分に力を入れる方がある様です。これは御止しになつた方が宜しいかと思ひます。

私も長年この方のことをやつて居りますので、また各國の色々の人の書いた数字や、日本でも銀行、鐵道省、郵便局等色々の数字を集めたり、又それを見る機會も極めて多いのでありますが、それによつて見ますと、矢張り一つの銀行にはそれぞれ何となくその銀行なり、會社なり、役所なりの特有のタイプが傳統的にあつて、それが時の力でモディファイされて來たといふ事實は確かにあるやうです。

そしてこれがその数字を書く欄の大きさ、銀行であるとその銀行の通帳や元帳の貸借及残高の金額欄の萬、千、百、十、圓、錢位等の青線の幅の大小廣狹、或は又振替で云へばその金額欄の廣狹、鐵道の手荷物の受取、手荷物切符等にある斤量、金額の欄が色々でありまして、手近な銀行で云ひますと、安田銀行の當座通帳の金額欄の

青線の間隔は僅かに一分であり、川崎第百銀行のは一分二厘弱、三菱銀行のはこれがずつと廣くなつて二分、振替貯金課のは又反對にその幅がずつと狭く圓位と錢位とだけが一括されて各三分八厘といつた工合になつて居ります。そして以上の通帳の用紙で見ても各その数字の高さには何等の心配なく書けるやうに充分のユトリがありますが、その幅に至つてはその釣合から云ふと比較にならぬ程狭く、此数字の高さと罫の幅との關係には数字の鮮明度、書記速度等から云つて事務のエフキセンシーその他に關聯し頗るデリケートな問題が起つて來るのでありまして、これ等は何れも實地にその局に當つて居られる方の實際問題として、只今私のお話した標準的な数字が果してどの程度迄受け入れられるであらうかといふことは、實務に携つてゐる方にお伺ひしたいと思つて居ります。

七. ペン先に就ての注意

學習者の使用するペン先の種類は各自により色々であり、又同じペンにしてもその製造會社によつてスタイルの質やテムパリングのやり方一つで種々様な性質のものも出來ます。然しその種類としては銀

行ペン、Gペンが一番よいやうで、各會社によつてそれぞれマークを異にし、アメリカではニュージャージー州産のエスタブルックが斷然おさへて居りますが、國産品にも相當種類があり、又本場の英國には世界ペン製造の鼻祖と云はれるバーミンガム市のジョセフ・ジロット、ヒンクス・ウエルス、ペーリー、ブランダー、獨逸ではベルリンのハインツ・ウント・ブランケルツ、ラインのゾエネッケン、バーデンのネロ・ウエルケ等何れも鏗々たる會社であります。此等の會社は何れもGペンなり、銀行ペンなりを製出して居りますが、會社によつてその値段に著しい相違があり、又品質にもそれぞれの特質がありますが、日本ではどうしたものかヒンクスが斷然勢力があるやうです。これも最近漸次國産品に驅逐されつゝあるやうです。私共に云はせますとペン先は相當な硬さをもつて居る外にその先に適度な弾力がなければならぬもので、ペン先の硬いのはヒンクスが一番のやうですが、弾力ではジロットが一番のやうです。しかしいくら硬いペンでも、又弾力のあるペンでも無暗に力を入れたり、飛行機ならぬ横轉、逆轉といったやうなアブノーマルな持ち方をしては、二日もつペンも一日、一日もつペンも半日しかもたないやうになります。私共も始終ペンを持つて居りま

すが、なるたけ新しいペンよりも使ひ慣れたペンを使ふやうにし、使用後の手入れをよくして一日、二日、三日といったやうに使つて居ります。

それは勿論その時書く文字の數量、紙の質などにもよりますが、一番普通の人の氣がつかないでゐて、ペン先のちびて書けないのは横ペンです。即ちペン先の二つの割れた部分が紙面に正しく當らねばならないのが、ペンが横になつてゐる爲、この部が不正な無理な當り方をして五日もつところが一日で駄目になる様なことがあるのです。

それからペン軸はいつも右肩のはしを指すのが一番正しいのですが、多くの人のを見ると大抵外れてゐます。これは掌を少し伏せる様にすればよいので、かうしたペンの當りや持ち方に注意し、出来るだけ軽く書く様にしますと、書いた字が美しく、且つ早くて、ペンも大變永くもつものであります。私共は此持ち方で平均一本のペン先で一枚の紙に五分の高さのキャピタル三字づつを三千枚位つゞけて書いて居ります。紙はクレイもしくはタルカムの入つて居ない模造紙を用ひて居ります。これに比べて紙の質もよく、又良いスーパー・カレンダーを通つて居る帳簿用紙としての上質紙は紙の纖維そのものはよいとしても、それを

漣くに際して紙面を滑かにするために多少の鑛物質が入つて居りますので、ペンの普通の模造紙あたりに比べて、チビ易いのは止むを得ないのでありますが、そのチビ易いのは確かにペンの向きを正しくし、そしてそれを軽く持つことによつて新しいペン先と取替へることも少なくなり、相當長く書き慣れたペンを使ふことが出来るのであります。

それからこれは書き方に就てではありませんが、銀行會社でよく金 G を使つて居るところがあります。無論金 G は文字通りスチールの上に少しでも金メッキがしてありますので、かなり強い酸氣のある今のブルー・ブラック・インキを三日も四日も使ふにはよいかも知れませんが、用度の豫算は一日一人一本平均に使ふと見てゐるといふことであります。すると一日一本の割ですから、インキの強い酸氣にあつても、一日位ならば、何も金ペンを使はなくとも、普通のグレイで充分ではないかと考へます。又實際金 G といつても中は全くのスチールで、おまけに其の上について居る金は純金ですから、少し書いて居ると上の金はとれて、中のスチールが出るので、スチールで書くのと少しも變らず、又金のために酸化のおそいから、インキの流れがよいと云はれる方があるかも知れませんが、

一日間位の使用では殆んどこれは問題でないのであります。

又一つ御参考に申上げて置きたいのは、ペン先のキラキラ光つて居る新しいのよりも、私共は先のいくらかサビのあるのがあればそれを特に撰んで、そのサビを一寸何かでぬぐひ落して使ふのであります。これはペンのニスがとれたためにそこがさびたので、そのサビを取り去れば新しいペンでニスを取去つたものと同じで、インキの流れが最初から適當になつて居るといふことが出来ます。

又事實に於て新しいペンを使ふといふことには色々な不便不利があつて、先づ第一に先について居るサビ止めワニスを取り去らねばならぬ不便があり、此ワニスがついてとれないと、インキのつき過ぎの時にはどうかするとインキがポタリと落ちる事があります。

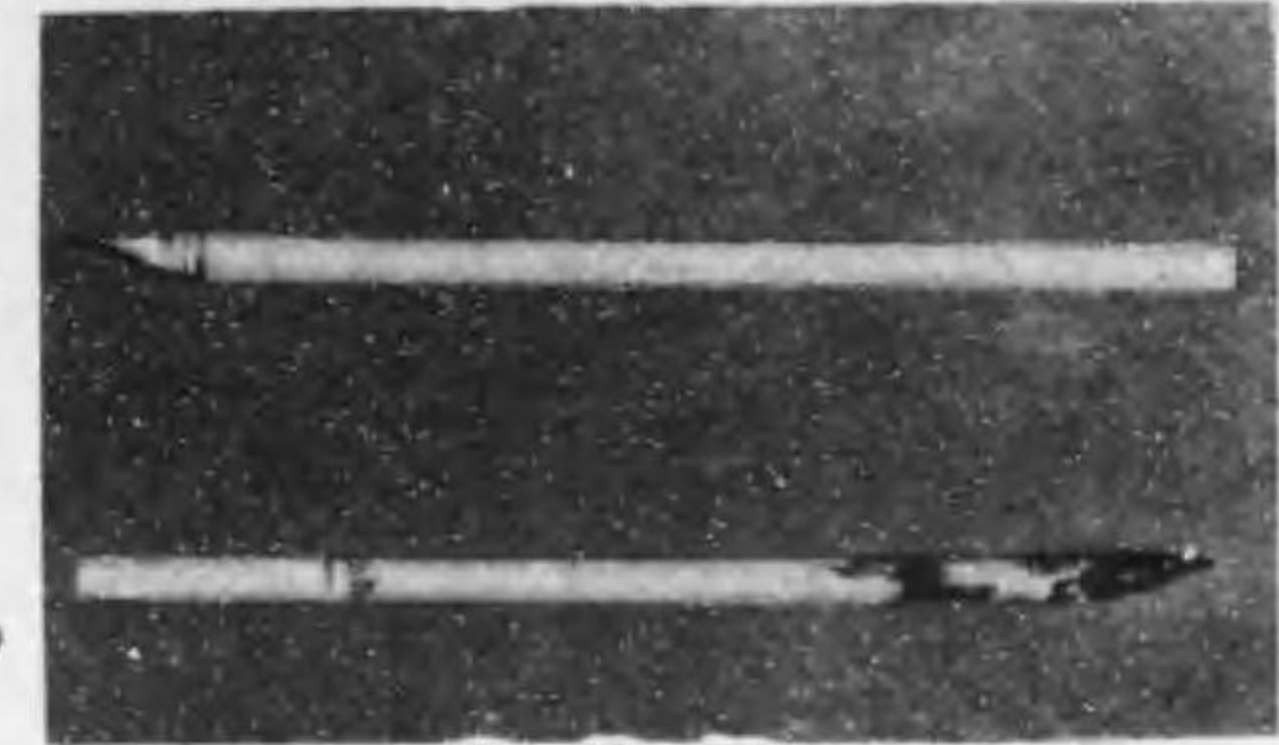
それからペン先の割り方ですが、これはどんな製造法でも機械工作に依らないで、一本々々手で割りますので、女工の手の當て方一つでその先が一寸數字では現はせない相違が出来、此相違が此先は書きよいとか、或は書きにくいとかいふことになるのであります。勿論仕上工が一々その先を調べて二つ宛の割り方の不完全なもの、割落したものなどは、一々ハネることに

なつて居りますが、それでも一本々々書いて見ると書きよいペンと書き難いペンとがありますので、書き易いペンにぶつつかつたなら、なるだけこれを長くもつ様に正しく軽く持つと云ふ事に注意されたいと思ふのであります。私共でもペン先の取替の多い時は文字がうまく書けない時で、私共が實地に御教へした人達についてみても、ペン先の新しいのをとりかへる度数の多い人程文字が餘り上手でないといふことがいへる様であります。これは數字ばかりでなく日本字でも同じ事であらうと思ひます。

八. 傾斜に就て

昔は大體文字を書くに云ふことは御坊さんの獨舞臺のやうなもので、文章とか、記録とかは大抵宗教味を帯びたものでありますから、坊さんの書く草書體には *Cursive* と云ふ特別な字體が出来て居つた位であります。これは昔の石彫とか、木彫とか、粘土を使ふとか、木の葉を使ふとかして書いて居つた固い文字とは別な、當時實用的な價值を持つて居り、當時に於ては速書に適したものと一般に認められて居りましたから、今日

我々の用ふる辭書の中から *Cursive* と云ふ言葉を引いてみますと、「走り書」と云ふ譯語が出て居ます。しかし今から見ると、中々走り書どころではなく、立派なレタリングとも云ふべきものでありまして、今日でもさうしたカー



第 40 圖

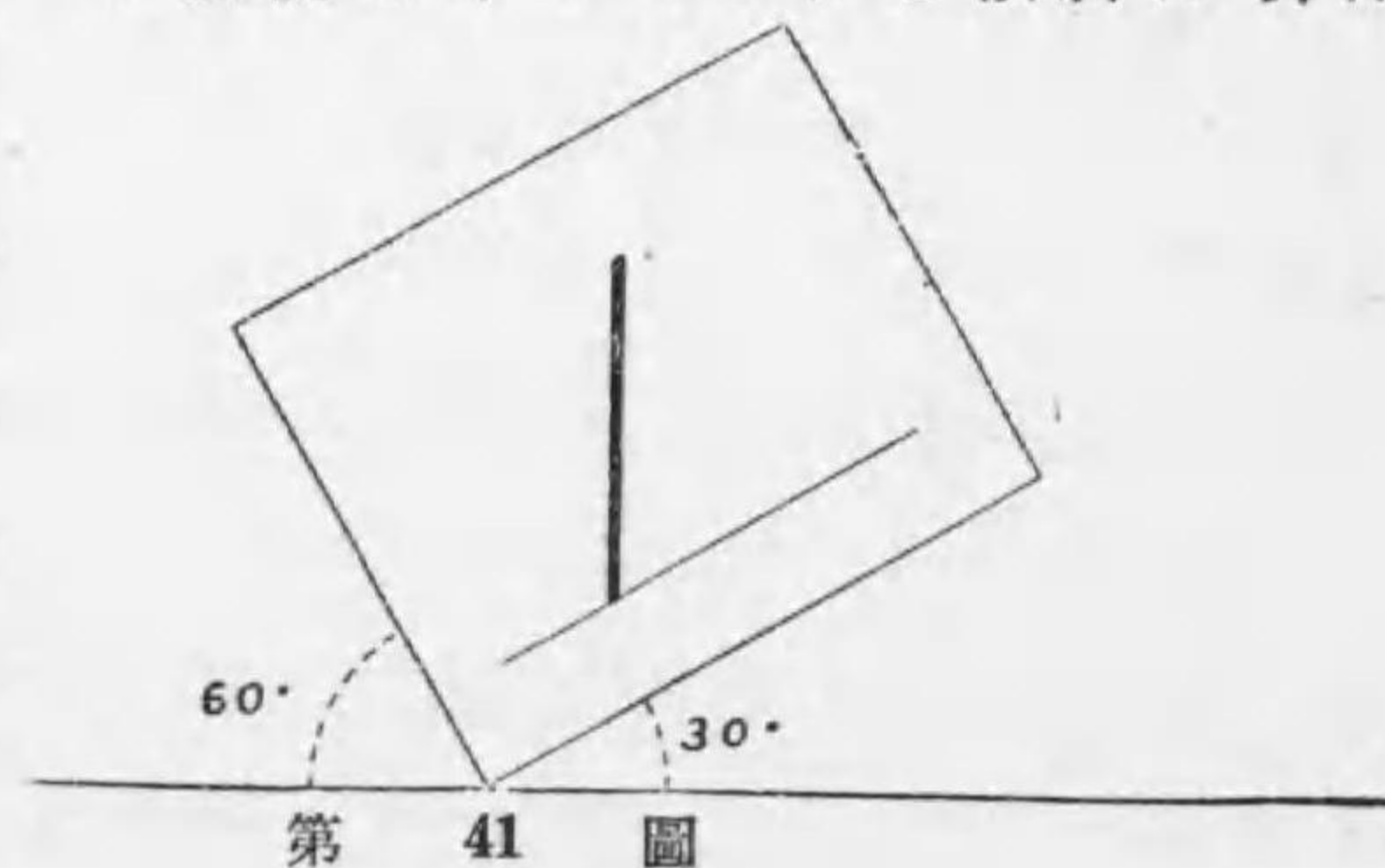
シイヴを挿圖のやうなリード・ペン等を使つて、極めて古典的な *Address* や *Declaration* と云つたものを書くのでありまして、現に私も此リード・ペンを使つて居ります。

しかし此カーシイヴはどこまでも立體である爲に、保守的な英吉利のジョン・ジャックソン (*John Jackson*) と云ふ人は草書體(數字を含む)は立體でなければならぬと、今から二三十年も前から文字其ものの速度とか、レヂビリティとかを眼其他の衛生的立場から云つて居りますが、それにはロシア人の眼の御醫者さんである *Wundt Lamansky* の假説として知られて居ます「人間の視線は常に前方に向つて平行に働くものである」と云ふことを土臺として視線の方向に身體を直線になるやうに置いて、文字を立體になるやうに書くのが、書く上から云つても、亦讀む上から云つても、どちらから云つても正しく、且これが衛生的であると云ふのです。

そしてそれは「人間の視力は垂直若くは水平に最もよく働いて、斜には言ひ換へれば垂直若くは水平に遠去かるに従ひ働きにくい」と云ふ実験例を楯にとり、總ての書記動作は立體を書く人がまだ絶えないやうであります。此立體論者の説は理論の上から云ひますと、如何にも尤のやうに思はれますが、これを實際に就て考へると重大な事項を忘れて居るのであります。

それは紙の位置、簿記で云へば帳簿の位置でありまして、視線に添ふて下行線を引く場合、身體に向つて垂直に書くといふことは、成程充分に理窟のあることであり、これは私共も肯定して居る事實であります。私共が机の縁に對して紙をその右側三十度、左側六十度に置くことは、紙即ち帳簿のベースラインに對し六十度の傾斜で數字を書くこととなり、 $30^{\circ}+60^{\circ}=90^{\circ}$ 即ち垂直に書くといふことでありまして、立體論者のいふウント・ラマンスキーの假説は却つてこれを傾斜に引用することが出来、

只その間に前者は紙の置き方を机の縁に平行、後者は机の縁に對して挿圖のやう



に置いただけの相違となるのであります。ところが立體論者は悉く垂直で、書く時も、讀む時も、ウント・ラマンスキーの假説に合致するが、斜體を書く時は成程立體と同様で、一度紙をその位置に變じて讀むと、下行線の傾斜は斜線に變ずるのではないかと云ひます。斜體論者は如何にも立體の下行線は垂直には相違ないが、その垂直を繋ぐ漸進運筆による上行線は理論上45度の傾斜を有する垂直線及水平線に最も遠ざかつた線であると云ふやうに、兎に角色々の理由なり、論争などがありました。今日では最早理論の時代は過ぎて、實行の時代となつて居ります。心理學上書き易いこと、立體よりも斜體の方が人間の眼に錯覺を起さし易い、アラが見えない、つまり美しく見えるといふことは松本亦太郎博士の實驗心理學十講第二百八十六頁にも出て居ります。又獨逸人 T. G. Fischer といふ人がその著 *Handbuch der Schulhygiene* (學校衛生) の第二百七十三頁に於て斜體が生徒の姿勢に及ぼす影響を研究し、「生徒を二つのクラスに分ちて、一方には立體を、一方には斜體を等しい姿勢、等しい位置を以つて練習させたところが、その結果は立體を書く生徒の方が遙かに早く姿勢が崩れた」と云つて居ります。

以上の理由で私の數字に關するお話は凡てその傾

斜度は、60度を標準とするといふことを前提としたものであります。

九. 数字の速度

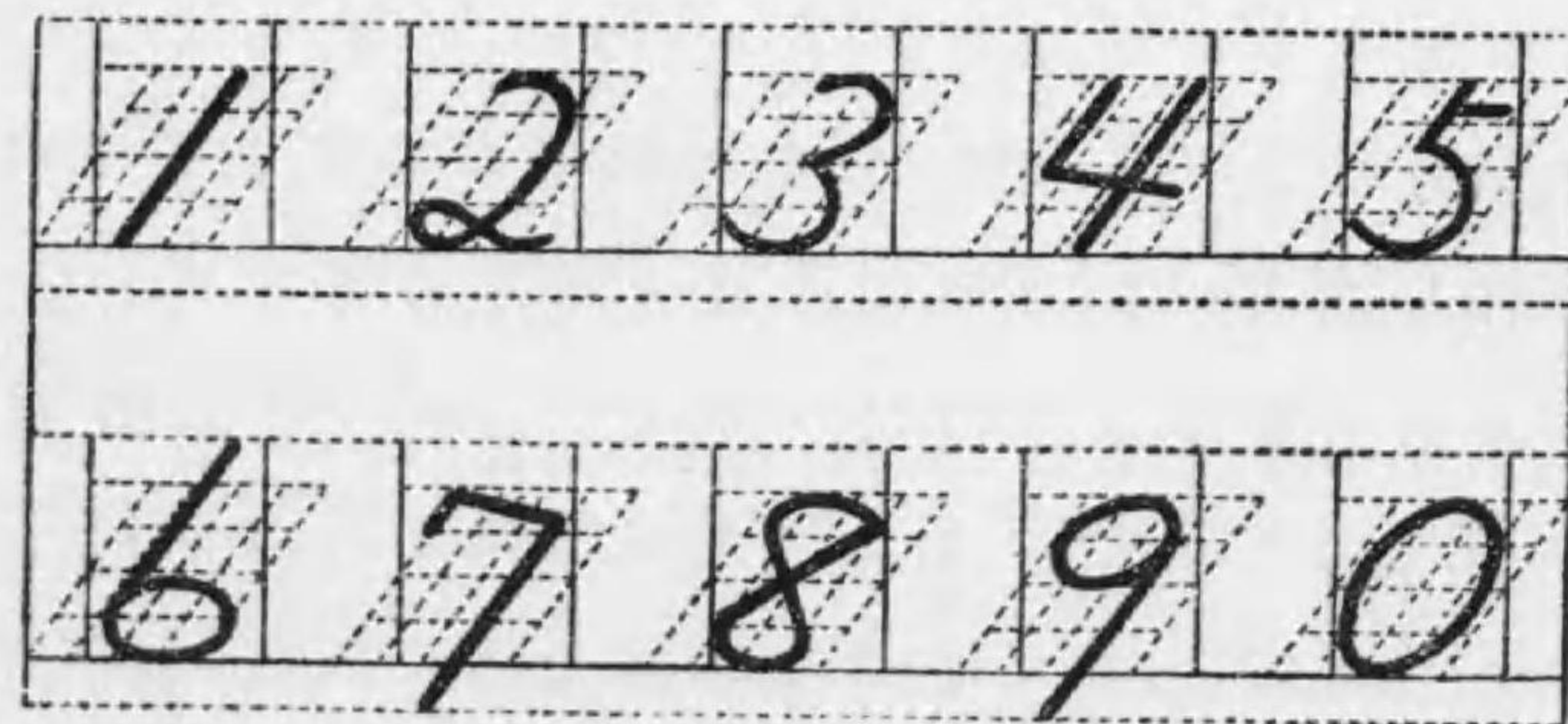
「アラビア数字の書き方」の項に標準的に示しておいたアラビア数字の1から9,0までをあの大きさで1,2,3,.....9,0と一通り書くには平均十二,三秒といふところです。少し入念に書けば二十秒掛ります。それを普通の安田銀行あたりの通帳に書いて見ますと、矢張り十字が十二,三秒平均で、字数が少くなると却つてその位置を決めるために時間がかゝり、能率をあげるといふ點から云つたら、此直線の間隔の餘り狭いのは考へもので、私共に云はせますと三菱銀行あたりの一分二厘の間隔は最も経済的で、理想的ではないかと考へます。

十. 数字の實際

ところで官廳や銀行會社で實際採用使用されてゐる数字はどんなものかと云ひますと、各官廳や銀行會社によつて皆それぞれ異つてゐるのでありまして、今私の手許にある資料の中、代表的なもの數種を紹介御参考に資することにします。

貯金局使用の数字

先づ貯金局に就いて観ますと、元來こゝでは爲替貯金及附帶業務に屬する原簿其他の證據書に記載するアラビア数字は貯金局用と郵便局用とあつて、貯金局用はカード式原簿採用の當初から、郵便局用は大正三、四年頃郵便局に於てアラビア数字を使用することとなつて以來共に引續き使用して來たのでありますが、兩者共實務上缺陷あり、殊に貯金局と郵便局とで各違つた字體を使用することは屢、不都合を生ずる場合もあるといふので、大正十三年十二月九日貯業第八二三六號でアラビア数字々體の改正統一が貯金局、郵務局、簡易保險局連名で各通信官署に通牒が發せられたのであります(大正十四年十二月九日遞信公報第三九三二號参照)。



第 42 圖

この改正統一された新字體は習熟の効果を速くさせようと、出来るだけ小學校で練習の字體に接近したものが選ばれたといふことですが、その改正の要旨を觀るに：

一、能率的のものなること

1. 字體の均整を失はざるもの。
2. 二桁以上書くとき筆脈の相通ずるもの。
3. 速書に便なるもの。
4. 速書するも明瞭を保ち得べきもの。
5. 運筆に無理なきもの。
6. 筆勢を一概に抑止せざるもの。

二、普遍的なもの

7. 一般公衆にも判り易きもの。
8. 窓口當務者にも容易に習熟し得べきもの。

等の諸條件を考慮參酌の上、種々實驗の結果最適と認められたものが選定されたといふことです。更に此を具體的に説明するため、在來採用の字體と新字體とを比較し、次表の如き解説が施されてゐます。

この新字體によつて從來貯金局及郵便局で各違つた字體で使用されてゐたアラビヤ數字は改正統一され、改正の趣旨は半ば達せられたのみならず、大體に於て新字體は舊字體に比し解説の如き効果を擧げるこ

新字體の解説

新字體	舊字體		解説
	貯金局用	郵便局用	
1	1	1	舊貯金局用字體の傾斜は三十五度なりし爲登記の際カードを傾くるの傾向があつたので全部之を五十五度の傾斜に改めた。
2	2	2	傾度を改めた外舊貯金局用と同じ、舊郵便局用は二桁以上書くとき筆脈の通ぜざるが如き傾があつた。
3	3	3	舊貯金局用は上半部が大で又舊郵便局用は下半部の彎曲に無理があつて速書するに不便であつた。
4	4	4	舊字體は速書すると何れも 6 に間違ひ易かつた。
5	5	5	舊字體は何れも彎曲不自然の爲書記能率が低かつた。
6	6	6	舊字體は速書すると何れも 4 に間違ひ易かつた、尙着筆點が裸外にあるのは 4 運筆に無理のない爲である。
7	7	7	傾度を改めた外舊貯金局用と同じ、舊郵便局用は横線の運筆に無理があつた、尙尾の長きは筆勢を一概に抑止せざる爲である。
8	8	8	舊貯金局用は一般的でないのと書記能率が低く且動もすれば字體が崩れ易かつた、舊郵便局用も字體の均整を失ひ易かつた、尙書出しを中央の線より始め直線としたのは字體の崩れるのを防ぐ爲である。
9	9	9	舊字體は何れも圓 0 の運筆に無理があつた。
0	0	0	傾度を改めた外新舊同じ。

とが出来たやうで、中にも傾斜を思ひ切つて標準60度に近い55度にしたことは、恐らく理論上の根據に基くものでなく、經驗上に據るものでありませうが、數字の書き方の上から觀て、改正の諸點中最大のものであるといふことが出来ます。

しかし細かい部分に於て例へば2の終りの横線の持つて行き方、3、5の曲線の作り方、4、7の横線は右下りになつてゐること、8の曲線が角張つてゐる點、9の0を圓くした等は感心出来ないのではありませんが、これも炭酸紙を使用する貯金局としては或は止むを得なかつたのかも知れません。

日本勸業銀行の數字

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第 43 圖

日本勸業銀行では新入行員に對し數字練習帳を與へ、これに依り數字の練習をさせてゐる由で、上のがその一頁毎に示された手本であります。手本としては大體無難のやうですが、これを實際に使用する場合には餘りに一字々々に捉はれ過ぎてゐるやうで、例へば3、5、8の終りや7の横線等は手本の通りでは速度が

遅くなり、速書される實地には望めません。實際同行員によつて書かれたものをみますと次の様になつてゐます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第 44 圖

三井銀行の數字

簿記用數字書體

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第 45 圖

これは三井銀行だけでなく、三井系會社共通の標準型といふことですが、大體に於て形は無難で、只3の上部右下り等は感心しません。實際使用のものは各自の自由といふことです。

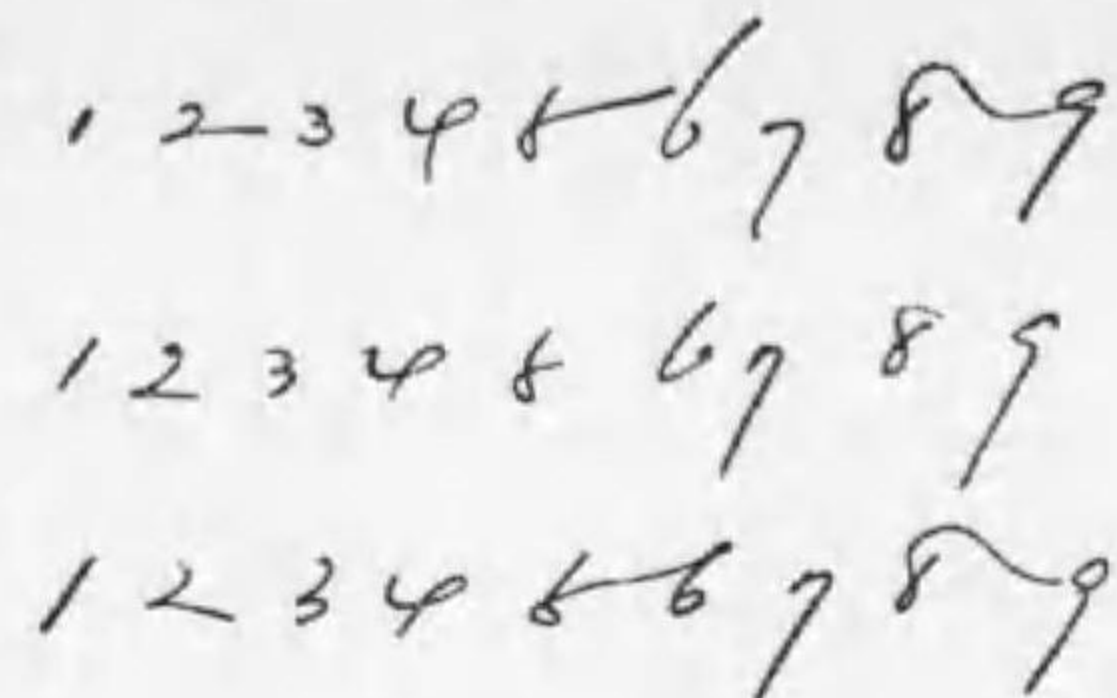
安田銀行の數字

三上 塔	409899	阿部 庫三	3350
島 安 乙	2403055	足立 信 康	11140
菊 場 久	14054	尾 崎 安 太郎	56650
堀 内 彌 三 郎	2000503	高 梨 慶 三	320436
前 田 喜 助	123	宮 本 傑	5421
太 田 半 六	3567	高 楠 順 次 郎	1987
川 崎 新 一	67853	長 谷 部 次	465557
山 岸 幹	225034	川 村 竹 二	50678
湯 田 三 郎	325367	原 野 勇 吉	2595
芝 染 太 郎	3024	下 平 浪 和	101955
小 柳 栄 一	134570	西 野 宿 男	513621
小 林 中	3020506	太 川 平 治	786644
原 康 克 次	500	原 勲 雄	225397
三 井 源 右 衛 門	323335	大 谷 嘉 兵 衛	449835
沼 辺 信 雄	132477	徳 水 末 吉	17926
森 寛	323034	小 岩 信	21597
横 田 八 右 衛 門	807381	高 坂 洪 三 郎	275534
高 本 隆	2303056		
新 井 壽 英 雄	533614	小 計	5855840
小 計	14202570	合 計	26448278

第 46 圖

安田銀行では新入行員に對し短日月の講習會を行ひ、上圖の如き珠算練習を兼ねた數字の標準が示されてゐます。これは手本といふよりも寧ろ標準を示した練習帳と云つた方が適當で、又練習帳としてならよく出来てゐると思へます。

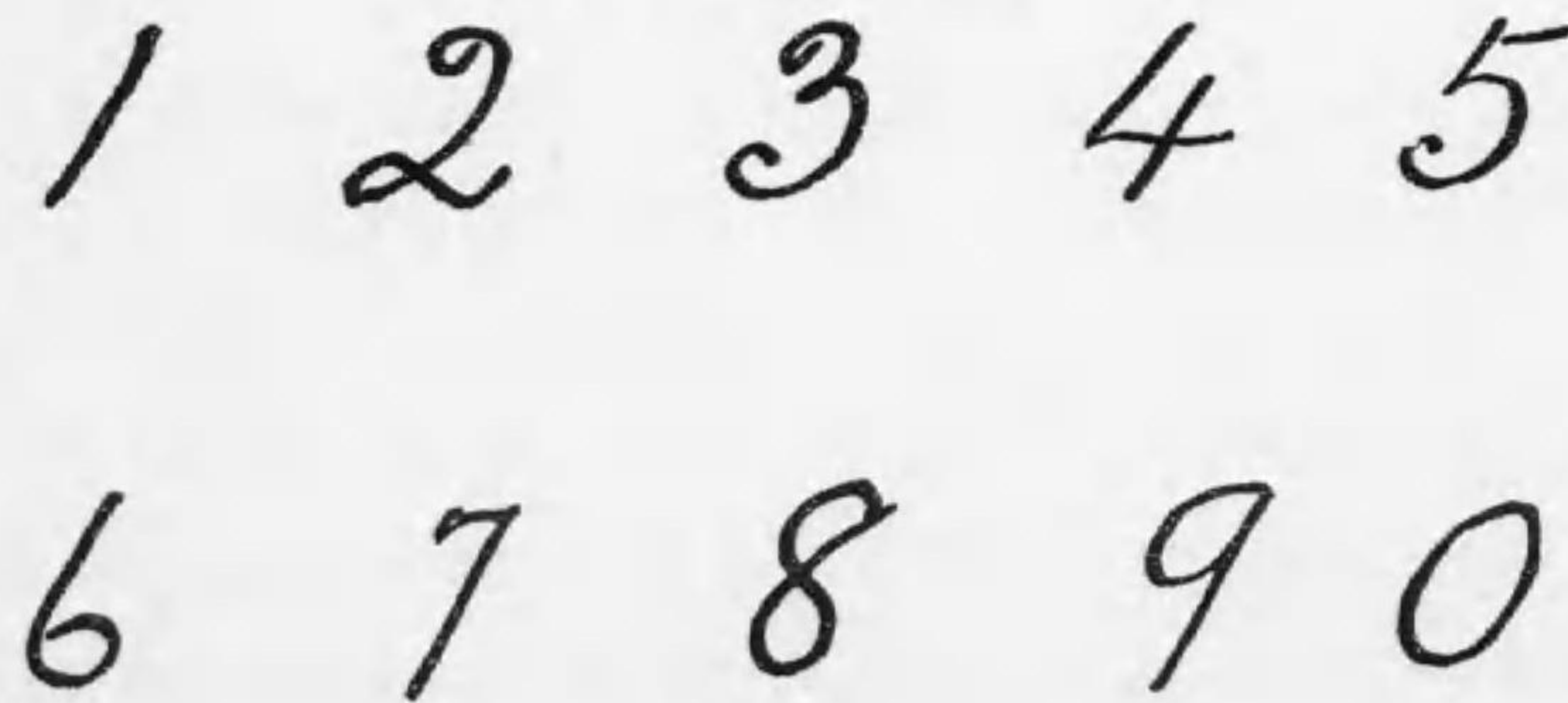
只5の曲線が右下りになつたものは速書すると8と間違ひ易く、2の横線の右下りは速書で3と紛れ易く、事實同行員の速書し



第 47 圖

たものを觀ますと、第47圖のやうなのがあります。

第一銀行の數字

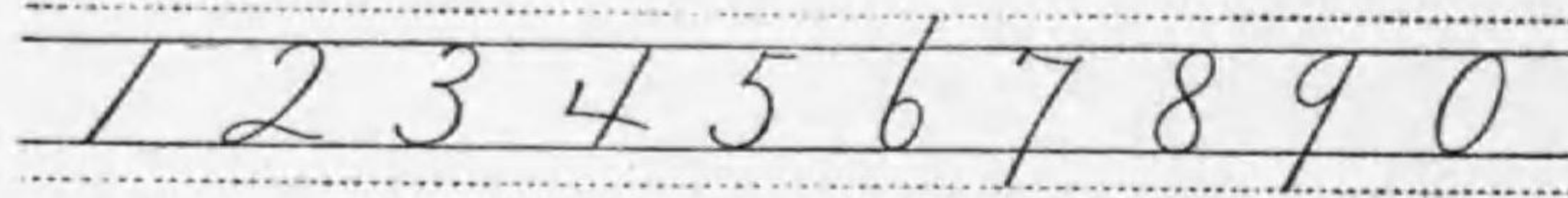


第 48 圖

第一銀行では上圖の如き故 E. J. Blockhuys 教授の手本を標準としてゐますが、行員の中でこの手本によつ

て書く人は一人もなく、新入行員に對する二週間の講習會でも現在ではこの手本は省られないといふことです。それは速書に適しないためで、即ち 3, 8 の如きは極端に傾斜が立つて居り、2, 3, 5 等の書き出し又は書き終りに冗筆がある等によるものです。

不動貯金銀行の數字



第 49 圖

一時新入行員練習用として上圖の如き手本が配付されましたが、4 の感心出来ないものを除くほか、運筆上又字形上銀行用としてはよく出来てゐます。現在ではこの型式は教へられず、行員の各自由になんて書かせてゐるといふことですが、残念なことと思ひます。

以上の如く數字を使用する機會の多い官廳や銀行會社では或は法規により、或は手本により、或は練習帳により正しい數字の練習に努めさせてゐるやうですが、實際上未だ十分でなく、依然次の如き數字が使用されてゐます。

當座勘定受入副報告

昭和 年 月 日

東京市 株式會社 銀行 支店

御中

金 額 再 記

受入金額ノ内 銀行店手形=入金相 成納過若不渡ト相成候節ハ其入金ハ取消可致候

(注意) 本副報告ハ必ず受取人(御送付相成候様) (依頼人通信文) (印)

第 50 圖

この不明瞭又は紛らはしい數字の書かれる原因に就て貯金局の改正趣意書には次の諸點が擧げられてゐます。

1. 達筆に任せて走り書きするもの
2. 不熱心に基因するもの
3. 練習の不十分に基因するもの
4. 數字に關する理解なきため不用意の裡に書くもの
5. 炭酸紙の不良に基因するもの

實際書く人に正しい用意がなければ、いかに立派な手本も役立たないのでありますが、又翻つてみますに、與へられた手本が餘りに理論と實際とを離れてゐる

場合には恐らく學習者にはその手本は練習出来ないものとなります。この點私の標準型が何かの御参考になれば幸甚であります。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第 51 圖

この挿圖は私の標準型を示したのですが、これは川崎第百銀行の「實務講習會」使用の手本で、自分の書いたものです。この川崎第百銀行の「實務講習會」といふのは中等學校、専門學校、大學卒業の新入行員を一緒にして實務に就く前、一定期間銀行實務を教へるための講習會で、昭和六年五月十九日私は銀行の依頼で同銀行神田支店の樓上の大講堂で開かれた同講習會でアラビヤ數字の講話を試みました。この「簿記用數字の書き方」も實は當時の講話の筆記を基礎としたものであります。

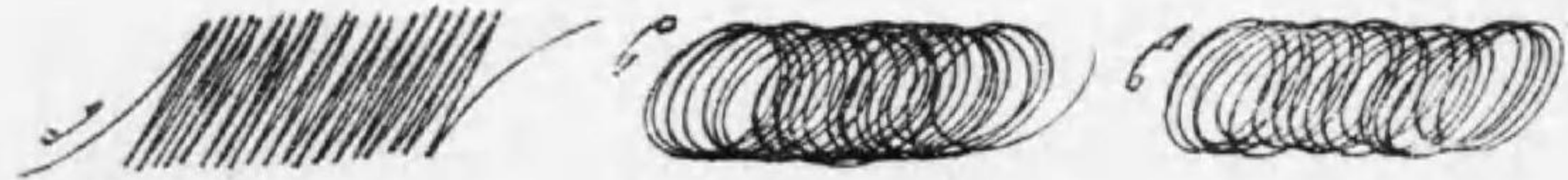
後 編

簿記習字帖解説

第一卷 解説

第一卷では大體に於て簿記用數字の一通りを教へるのが目的で、即ち先づ基本練習によつて運筆の習熟を期し、次に數字及簿記用記號に就て各別にその正確な形を教へ、最後に簿記特有の數字と簿記用語との調和を練習せしめるため、簡単な試算表及元帳を掲げておいたのであります。

一體ペン習字の基本練習として常に次の三つの練



習が行はれてゐますが、その目的效果の主なるものを挙げれば、

- 一、運筆を軽くしそれに一種の調子を與へること。
つまり固くペンを持つて不自然に力を入れるのを矯整し、終始均一に運筆させるのであります。
- 一、速度と字形とを調和させること。餘り速度が早いと字形は崩れますし、それかと云つて遅過ぎれば

ば線が震へます。即ちこの基本練習は最良の字形を得る最良の速度を見出す練習ともなります。

一、傾斜とか、間隔とか、大きさとか云つた文字構成の諸条件に対する基礎的な練習となること。

簿記習字に於きましても、このペン習字の基本練習はやはりその基礎となるものでありまして、この練習を行はずして直ちに文字そのものの練習を行ふのは、恰も土臺を築かずして家を建てるやうなもので、いつまで経つても正しい運筆を會得することは出来ないのであります。

故に簿記習字に於きましてもこの基本練習をその基礎とすることにしましたが、より簿記習字用的に、より直接的に効果あらしむるやう多少變形しましたのが第一巻第一頁の基本練習でありまして、以下順次これを基礎に練習を進めて行くのであります。

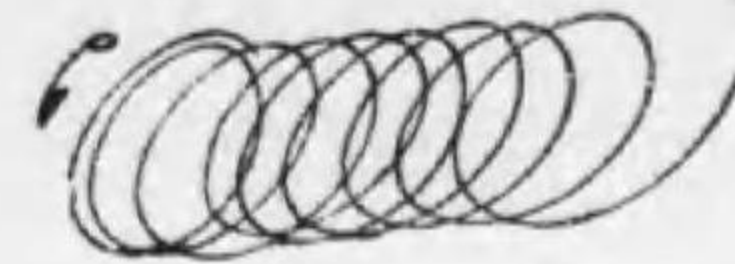
第一巻 第一頁

基本練習

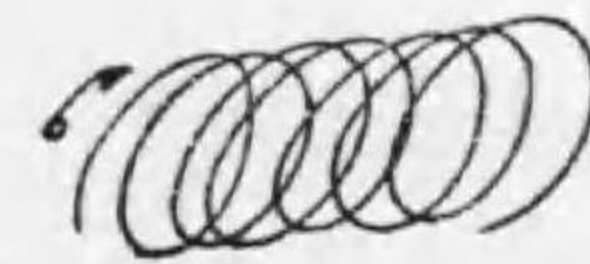


この斜直線練習で最も注意すべき點は線が震へないことです。線が震へないやうにするためには無理

な筆壓を加へず、只速度からくるはずみだけで書かねばなりません。上下間隔を揃へることも練習の一つです。



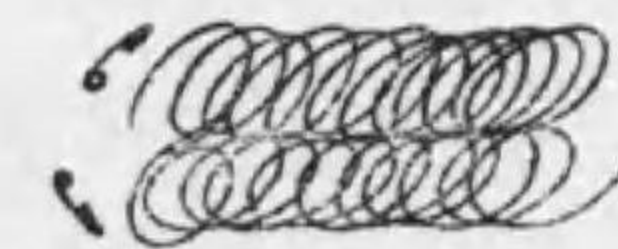
基本練習の一つであるオーヴァルの練習で、最も肝要なことは出来るだけ軽く運筆することで、漸次一つの卵形が揃つてくるよう練習を積みます。決して指頭でなく、前腕のはずみで書かねばなりません。



オーヴァルの練習と方向が反対なだけで、逆オーヴァルの練習と呼ばれてゐます。この練習では傾斜が60度より倒れ勝ちですから、この點特に注意せねばならないのでありますが、さりとて形のため軽快な運筆を澁らせないよう練習することです。基本練習は形よりも線にあります。



左右共六回から八回位宛繰返せばよるしいので、回数終りになる程固くなり易いのですから、始めも終りも同じやう



軽く運筆せねばなりません。

傾斜、大きさ、間隔等が同じやうに書けるかどうかを観るには最適の練習

です。もし同じやうに書けない場合には、上下二つ並んでゐるだけ缺點は目立ちます。

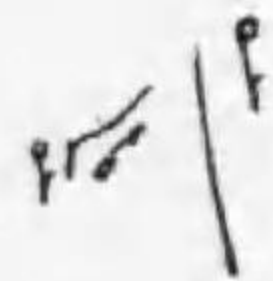
第一卷 第二頁



第一頁の練習と全く同じであります。



1 で注意すべき點は正しく60度の傾斜をしてゐるかどうか、線は震へてゐないかと云ふことであります。書き出しを軽く、終りを止めるやうに書けば、坐りがつきます。



7 の豫行練習で書出しは打立ての氣持で書けばよろしい。終りの斜直線は横線をカーヴさせたはずみを利用し、いくぶん反り氣味に運筆すれば書き易く、又坐りも出来るやうです。

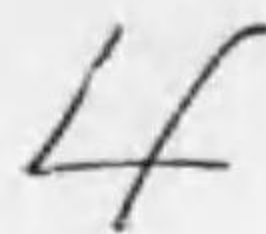


7 は豫行練習をその儘結びつけばよいので、只横線をペンを抜くやうにし斜直線へ移れば樂に書けます。



4 の豫行練習で、鉤線は始めの書き出しをいくぶん反り味にすればこの反り味のはずみで横線が軽く出来ます。

横線の終りは止めないで軽くペンを抜く方が字に柔か味が出来ます。最後の斜直線の書き出しは軽く斜から始め、始めの直線に平行します。



4 は全く豫行練習を結合すればよいのであります。

第一卷 第三頁



出来るだけ軽く、形よりも線が大切です。



スモールoと同じですが、いくぶん細目の方が他の數字と並べた場合、映りがよいやう

です。右側の圓味が左側ののに比べて虧げ

易いですから、右側のはいくぶん速度を緩めて形を作ります。終りが書き出しより離れたり、尖ったりしないやうに、又60度の傾斜にも留意します。



この0の連続練習は傾斜、大きさを揃へるのに恰好の練習で、速度を震へない程度で緩つくり

書きます。

9 の豫行練習ですが、書けたものとして上行線に對し下行線は垂直二等分せられる弧になるよう先づ見當をつけて筆を下しますとうまく書けます。正しい形の出来る迄幾つも幾つも書いてみます。

前の練習ではつきり頭腦に描かれた形をその儘筆に現せばよろしいので、斜直線との傾斜の關係を極めます。

曲線の終りはペンを抜くやうにしその儘斜直線へ移ります。曲線の終りと斜直線の始めとが重るレトレースする方が字が引締ります。

第一卷 第四頁

6 の豫行練習で、極く軽く運筆します。

曲線の結びが小くなつたり、角張らぬよう
に注意します。スーッと書き出し、そのは
ずみをペンに含ませながらいく分速度を
緩め、曲り即ちターンから形を拵へて行きます。
斜直線はぐつと引くやうな氣持で書けば字が

引締り、坐りもつきます。

上下傾斜大き共に同じになるやう
注意することです。

ターンの左右兩側を同じやうに圓味を持
たせることに注意します。

8 は方向相反する曲線のみから出来てゐ
まして、數字の中でも最も難しい一つであ
ります。しかしターンから終り迄さへう

まく書ければ樂で、即ちターンの左側でペンを
突き出すやうな氣持で少し速度を緩めて大廻
りに起筆點へスーッとペンを持つて行けばよ
ろしいのです。

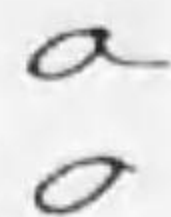
1700 以下の練習で特に注意すべきは傾斜、間隔、大
さの調和で、次頁以下この練習にはこの點注意してい
たゞけばよいのです。

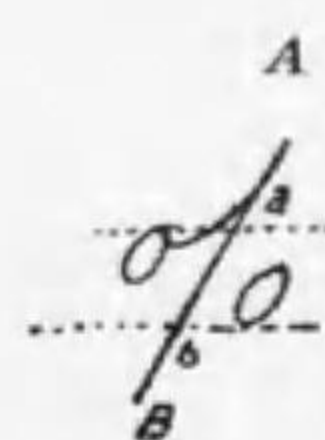
第一卷 第五頁

9 の豫行練習を参考にすればよろしいで
す。

直線から曲線へ移るターンを角張らぬよ
うにキャピタルと同じ筆法で書きます。

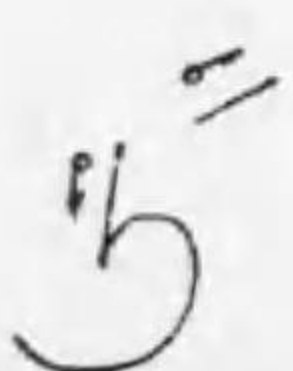

at (.....替)の記號で, a は圓の中央にあるやう, a と外廓線との間隔は大體 a の終りとの廣さにします。餘り狭くても,廣くても字の恰好が採れません。

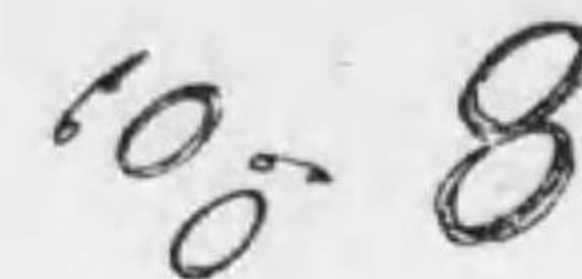
 二つの 0 は傾斜,大さ等を揃へます。

 per cent ($\frac{100}{100}$)の記號で,中央の直線は 0 と同じく 60 度,斜線は Aa, Bb が各 0 の長さと同じ,又は $AB=2ab$ であります。

1 4 7 0 9 8 の練習は前頁の終りの練習を参照していただきます。8 が全體として觀る時,小さくなり易いからです,特に傾斜と大きさに注意します。

第一卷 第六頁


 軽く書出して,ぐつと曲線を引くやうにし,軽くペンを抜きます。横線は終りを止めるやうにした方が締りがつきます。豫行練習をその儘結びつけばよろしいので,横線が全體から觀て,餘り長くなったり,短か過ぎないやうに注意します。

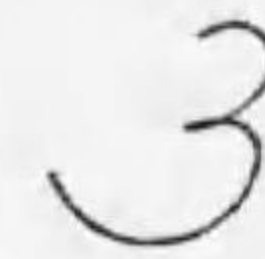
 8 の豫行練習と同じです。

ペンさへ軽く持つて居れば,樂に出来ます。

5 を書く要領をその儘利用すればよろしいです。



豫行練習でペンが軽くなつてゐますから,その儘 5 を書く要領で一筆に書きます。



書出しは「うつつて」をする積りです。書中

は結び目(ループ)を作らぬ方が字が引締ります。

終りをハネて全體に柔味をつけます。

1 3 4 5 6 7 8 9 0 は前の練習と同じです。

第一卷 第七頁



逆オーヴァルの練習は前にも

出てゐます。右の練習は兩端

をゆつくり大廻りするやうに

書けばうまく出来ます。

書出しは「うつつて」の氣持で 3 と同じです。



右廻線をぐつと突出すやうにして,横線を豫行練習の要領で軽く終りでペンを抜く

やうに書きます。横線のカーヴは右廻線を突

出すはずみを利用します。
3 の書出しと同じ要領です。

前の 2 と同じで、只横線が右廻線のはずみをそのまま軽くハネます。いくらかカーヴした方が柔か味と坐りとが出来ます。

23, 32 は 2 と 3 とは筆順が同じですから、比較的書き易いと思ひます。

第一卷 第八頁

1, 2.....9, 0 数字の總復習です。第一美しい線で書けるかどうか、第二正しい形で書けるかどうかを調べます。

第一卷 第九頁

ペンを出来るだけ軽く、ターンを角張らぬやうはずみをつけて書きます。

ループの腰が曲らぬやうに、三つ連続して書くと、終りになる程形が崩れ易いですから、同じ調子で書くやうに練習します。

うに練習します。

横線はループの中央に餘り廣くなつたり、狭過ぎないやうに正しく平行に書きます。

「.」は正しく、錢位を表す横線は軽く左から右へ引きます。

第一卷 第十頁

$\frac{1}{2}$, $\frac{1}{8}$, $\frac{25}{100}$, ¥100.25 等記號と數字との間隔は餘り廣くならぬやう、大さの調和に留意します。

錢位の三つの書き方で、「.」のみの場合は錢位の數字と圓位の數字は大きさ同じで、記號使用の場合は錢位の數字は圓位の數字の半分位に書きます。

1 から 9, 0 迄の練習は前と同じです。

「#」は平行に、終りの方が少し長目にして締りをつけます。

第一卷 第十一頁

字が小さくなりますと、筆が固くなり易いですから、今迄と同じやうに軽く書きます。

第一卷 第十二頁

記號が數字より大きくならないやうに、合計の横線

は右から軽く、横線に區切られた行間は餘り廣くならないやうにします。

第一卷 第十三頁

普通の商店で使用される程度の簡単な勘定科目です。簿記習字は上手に書くよりも間違なく、軽く書くといふことが第一義です。

第一卷 第十四—六頁

簿記習字の實地應用といふ意味で簡単な試算表と元帳の一部を出しました。手本に捉はれないで、出来るだけ自由に練習するのが望ましいのですが、氣髓にならないやう最初實例をよく觀て、どんなに記入したら最もいゝかを判斷し、そして今迄一字々々練習したところをもつて記入します。

第二卷 解説

第二卷は第一卷で基礎的に練習したものを實際の簿記に應用する練習を主としたもので、即ち第一頁から第四頁迄は實際簿記に使用される程度の大さの數

字を第一卷の基礎練習と同じやうに書けるようにするための漸進的練習であり、其他は殆んど簿記に出てくるもののみの練習であります。

この第二卷の應用を主とした練習に於きましては、出来るだけ學習者の自由に任かせるのがよろしいので、餘り手本に頼り過ぎますと、手本があればよく書けるが、手本がなければ少しも書けないといった風になります。但し學習者の自由に任せると云つても、勝手氣儘に書かせるのでなく、最初手本をよく觀て、いかに記帳練習すれば最もよく出来るかを判斷し、深く頭腦に疊みこませ、それからなるべく手本に頼らず書かせるやうにします。

第二卷 第一—四頁

數字 1 から 9, 0 迄の練習。小さくなる程手が固くなり、見當がつけにくゝ、練習も荒れて來ますから、一字一字に注意していただきます。

第二卷 第五—九頁

第五—七頁迄は商業簿記用、第八頁は銀行簿記用、第九頁は工業簿記用勘定科目。上手に書くよりも、間違ひなく、輕快に書くやう練習します。

第二卷 第十一—十五頁

仕譯帳,元帳,貸借對照表の練習ですが,第一卷第十四—一六頁の注意を参照して下さい。第二卷では赤線も練習するやうになつて居り,要所々々には目印がつけてあります。

第二卷 第十六—十七頁

傳票の記入練習で,傳票は性質上速書ですからその積りで練習します。連続0は速書の練習に適當な運筆練習です。

第二卷 第十八頁

領收證の書き方です。

第二卷 第十九—二十頁

自由練習の目的で仕譯帳を出しておきましたから,何も見ず,適當に記入してみして下さい。それでうまく書ければ,今迄の練習が實を結んだことになる譯です。

— 終り —

昭和十年 二月 十四日 印刷
昭和十年 二月 十八日 發行

簿記習字の書方

定價金貳拾錢

著 者 吉 田 一 郎

發 行 者 東京市神田區神保町一ノ一
株式會社 同 文 館
森 山 章 雄

印 刷 者 東京市蒲田區出雲町一〇一
株式會社 三省堂蒲田工場
龜 井 豐 治

發 兌 株式會社 同 文 館
東京市神田區神保町一ノ一
振替東京135
大阪市西區阿波座下通二ノ六
振替大阪22128

特217

390

終